

### 3-3 研究開発Ⅲ

#### 3-3-1 研究開発の意義

##### (1) 研究背景

研究開発Ⅰにおいても記載通り、本校独自のアンケート「生徒の郷土に対する意識調査」において、ほとんどの生徒が宮崎市での将来像を描けない状況にあると考える。さらに、宮崎市の課題解決に貢献できると思わない生徒のほとんどが自分の可能性を感じていない状況にある。この状況改善のために研究開発Ⅰ、Ⅱに取り組んだが、この事業を本校だけで取り組んでも状況改善にはつながらず、真の改善として郷土を担う人材の育成、発掘は宮崎市内のすべての高校が協力して行うべきであると考えた。そのために、生徒が取り組んだ事業を他校へ発信し、生徒間のネットワークを構築する必要がある。また、広い視野を持たせるため、宮崎県内だけでなく、全国へと発信していき、客観的に宮崎県の現状を把握してもらい、この事業に取り組んだことを進路先に活かして郷土愛への普及を図ることが必要と考え、以下の仮説を基に研究に取り組んだ。

##### (2) 仮説

本校独自のアンケート「生徒の郷土に対する意識調査」より宮崎県の特徴ある企業を知らない生徒は70%であり、将来、本県での就職を希望する生徒は22.7%であった。このことから研究開発Ⅰ、Ⅱより多くの企業や大学と関わることで宮崎の魅力に気づいた生徒を増加させられると考える。この成果を多くの場で発表させ、さらに研究を深めることで、地元志向が高まると考える。

##### (3) 実施項目

項目	期待される効果
成果発信	研究成果をあらゆる場で発表することで研究内容に自信を持ち、更なる研究の深化を求めることができる。
成果発進 (進路研究)	進学目的が明確になり、進路実現への意欲を高めることができる。また、県内大学との連携により大学の研究内容を深く知ることで県内大学等への進学が高まる。

##### (4) 成果と課題

###### 〈成果〉

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により対面による発表会は実施されなかった。しかし、オンラインによるポスターセッションの増加、通信機器の整備によって、県内外の高校との交流が増えた。様々な発表会に参加することによって、生徒の自信をつけることができたのではないかと感じた。

###### 〈課題〉

オンラインによるポスターセッションの増加により発表の機会が増えたことで、プレゼンテーション力は向上しているが、その後の質疑応答やディスカッションを苦手としている生徒が多い。

###### 〈今後の展望〉

今後は、対外的な発表会の参加を推進するとともに、校内においても定期的に探究活動の進捗状況を他の班に発表させるなどしてディスカッションを盛んに行うことで研究内容をしっかり理解させていく必要がある。

### 3-3-2 各項目の実施内容

#### (1) 成果発信

##### ① 実施項目

項目	開催月
I みやざき SDGs 推進フォーラム 2021 (対象全学年)	5月
II みやざき SDGs 教育コンソーシアム (以下 MSEC) フォーラム (対象3年)	7月
III みやざきハイスクール EXPO 「県立コミュニティ・スクールオンラインシンポジウム」(対象2年)	12月
IV 全国高校生フォーラム (対象3年)	12月
V 宮崎県高等学校課題研究発表大会 (対象2年)	3月
VI 第3回高校生サイエンス研究会 in 第一薬科大学 2021 および 第4回高校生サイエンス研究会 in 第一薬科大学 2022 (対象3年)	3月

##### ② 各項目の内容

#### I みやざき SDGs 推進フォーラム 2021

主催

みやざき青年会議所

目的

大学・専門学校、そして社会人と 2030 年に向けて SDGs 推進の中核になっていく宮崎市内の高等学校に在学する学生の SDGs への理解を図る。

日時

令和3年5月16日(日) 午後1時から午後3時30分まで

内容

本校生徒がパネラーとして選ばれ、本校にて、生徒・職員に使わなくなった履き物や衣類を募り、カンボジアへの寄付を行った活動などを発表。その後、SDGsに関する宮崎県・市の事例や現状を学んだ。



発表の様子

## II みやざき SDGs 教育コンソーシアム（以下 MSEC）フォーラム

### 主催

みやざき SDGs 教育コンソーシアム、宮崎県教育委員会

### 目的

様々な県立高校の生徒たちが、自ら課題を設定し、多角的・多面的に課題を捉え、試行錯誤の中で課題解決に取り組む探究的な学びの成果を多様な学校の生徒等に伝える場としたい。他校の生徒との対話を通して、多様な価値観や考え方に触れ、多様性を認める力や他者とのコミュニケーション力の養成を図る。また、ひなたハイスクール・ネットワーク構成校における ICT 機器等を最大限活用した学びのノウハウや教育活動、MSEC 加盟校の多様な学びを共有し、県立高校における教育コンテンツの質的向上を目指す。

### 内容

県内の高校本校含め、17 校参加し、日本語部門（本校 11 チーム）と英語部門（本校 1 チーム）での発表会が実施された。オンラインによるポスター発表を行い、他校の生徒からの質疑応答が行われた。また、英語部門に関しては、日本語部門と同様に発表後、留学生からの質疑応答が行われた。英語部門に参加したチームが県で 1 位となり、12 月に開催された全国高校生フォーラムに出場した。

日時 令和 3 年 7 月 15 日（木）

- 9 : 3 0 開会式
- 1 0 : 0 0 ポスター発表
- 1 5 : 1 0 生徒交流会（オンライン）
- 1 5 : 4 5 表彰式・閉会式
- 1 6 : 0 0 閉会式

### 参加作品の研究テーマ

日本語部門	
インフルエンザの予防は予防接種だけじゃない?! これでインフルエンザ怖くない!!	宮崎市の活性化
低糖質カップケーキづくり	性格に基づく勉強法
都農町に学ぶ ふるさと納税と地域活性化	青島に観光客を取り戻せ! with コロナ
タルタルソースの開発	農薬と害虫について
熱電発電について	外国の教育制度を日本に取り入れたらどうなるのか?
南海トラフ時ドクターヘリ	
英語部門	
Creating chatbot appliction using AI ~Let's create "Talking Girl"~	

## 生徒の感想

私は MSEC フォーラムに参加して、まず SDGs の事をより理解できたなと思います。様々な文献を調べている中で自分は思っていたよりも知らないことが多くて、17 の目標を見て知った気になっていたのだと気付きました。そして私たちの発表分野は教育だったので SDGs の目標 4 の「質の高い教育をみんなに」についての動画や記事を沢山見ました。現在の世界の教育の現状は勿論だけれど私は「教育は子供だけじゃなく大人も受けるもの」と知った時にとっても驚いたし納得もしました。教育と聞くと自然と対象を子供だけだと思い込んでしまっていたので、違う視点から考えることができよかったです。他の学校の発表も興味があるものや面白そうなものをいくつか視聴しました。その中で私が一番印象に残ったのは、日向高校の『心理×教育～取り戻せ 児童生徒の明るい未来』という発表です。引きこもり、不登校に関する発表で「現状どのくらいいるのか」とか「どうしてそうなってしまうのか」など流れに沿ってポスターにびっしり細かく書かれていて、でもとても見やすく発表も簡潔で分かりやすかったです。宮崎西高校の発表で「延岡城の千人殺しの石垣の崩壊-石垣の秘話と延岡藩の策略」という発表は内容もとても面白かったけれど、発表者がハキハキとした喋り方で難しい所でも分かりやすいように言葉を選んで話してくれていたところがとても印象に残りました。生徒交流会では普段話す機会のない学校の生徒と話すことができよかったです。最後に、自分たちの発表で質疑応答の時に予測していなかった質問をされて頭の中で焦ってしまったけれど臨機応変に対応してくれた班の二人にとっても感謝しています。また今回のような場があったら自分から参加してもっと貢献できるようにしたいと思いました。今回、MSEC フォーラムに参加してよかったなと思います。

今回 MSEC フォーラムに参加してたくさんの方の発表を聞いて、私たちの全く知らない内容や考えたこともなかったことを沢山考えてる人がいたのですごいなって思いました。1 番私が興味を持ったのは不登校になる人の特徴を発表していた班の発表です。色々私たちが考えさせられる部分も沢山ありました。将来いじめとか児童虐待、不登校などそういうことも扱っていく職業に就きたいと考えているのでとてもいい学びができました。MSEC フォーラムに参加してよかったです。

今回初めて MSEC に参加して、他校の課題研究の発表を見てとても刺激を受けました。自分の班と同じテーマであっても、その人の提案は私たちでは考えつかなかったアイデアであったり、発表の仕方も班によってオリジナリティがあり、見ていて楽しかったです。自分の班の発表は、反省点はたくさんあるものの、質疑応答の時間を含め自分たちの伝えたかったことを最後まで伝えることができたので、達成感があります。リモートでの発表ということで今までにない緊張感もありましたが、無事に終わられたので良かったと思います。他校の発表を多く見て、研究の発表の仕方や、研究対象を多角的に見ることなど、学ぶことがたくさんありました。今後の学校生活や、これから先に繋げられるようにしたいと思います。

### Ⅲ みやざきハイスクール EXPO「県立コミュニティ・スクールオンラインシンポジウム」

主催

宮崎県教育委員会

目的

県立高校のコミュニティ・スクール（コムスク）等が実施する「学校を核とした地方創生推進活動」に関する成果発表、地域振興に関するパネル・ディスカッション等を行い、地域の将来を担う人財の育成と地域づくりの起動となる取組の拡大を図る。

日時 令和3年12月19日（日）

13:00～13:15 開会行事

13:15～14:10 地域課題解決型研究発表①

県立コムスク校 5校

①福島高校 ②本庄高校 ③飯野高校

④妻高校 ⑤門川高校

14:20～15:05 地域課題解決型研究発表②

県立コムスク校 1校、県立高校（4校）

①高千穂高校 ②宮崎南高校

③佐土原高校・都城農業高校 ZOOM ④小林高校

15:15～16:00 パネル・ディスカッション Q&A 形式にて進行  
テーマ

「私たち高校生ができる地域・学校の魅力化とは」

パネラー：研究発表校（9校）

生徒及び地方自治体職員 4名

16:00～16:15 オンライン視聴者とパネラーの意見交換会 オンライン

16:15～16:30 閉会行事

(1) 結果発表

(2) 表彰

(3) 大会講評

(4) 挨拶（宮崎県教育委員会）

参加作品テーマ

「羽ばたけ宮崎のライチ」フロンティア科2年



生徒作品は p 51 参照

#### IV 全国高校生フォーラム

##### 主催

文部科学省、筑波大学（WWL 幹事管理機関・SGH ネットワーク 幹事校管理機関）

##### 目的

文部科学省において実施しているスーパーグローバルハイスクール（SGH）事業及びワールド・ワイド・ラーニング（WWL）コンソーシアム構築支援事業に取り組んでいる高校生がオンラインにより一堂に会し、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決や提案等を話し合うとともに、英語でのポスター発表を映像により発信する。

日時 令和3年12月19日（日）

13:00～13:07 開会式・全体説明

13:08～15:04 プレゼンテーション

15:15～16:35 参加生徒交流会（テーマ別分科会）

16:50～17:30 講評・受賞校コメント・閉会式

##### 参加作品テーマ

AI-Based Dementia Control Let's Create "Talking Girl"!

##### 内容

MSEC フォーラムの英語部門で宮崎県1位となり本校フロンティア科の班が出場することになった。事前に動画を提出し、それを審査された。当日は、要約を発表する形であった。県外の生徒の発表が見ることができ、また、生徒同士の交流の時間も設けられていたため、それが、生徒たちの刺激になったようで、この大会に参加できて有意義であったとの感想が聞かれた。



提出発表動画の1シーン



当日の様子

# AI-Based Dementia Control

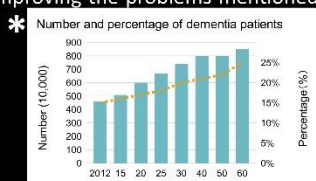
## Let's Create "Talking Girl"!

W202012-3  
Miyazaki Minami Highschool



### 1. Background

Recently, Japan has seen an increase in the number of aging and dementia patients\*, and the resulting shortage of caregivers has become a social problem. Therefore, in view of the rapid development of AI, which is being used in a variety of situations due to its multi-functionality, the practical use of applications that can act as a talking partner, and the fact that the most effective way to delay the progression of dementia is to increase social interaction and activate the brain, we used AI that can act as a talking partner and created the chatbot application, "Talking Girl", for the purpose of improving the problems mentioned above.

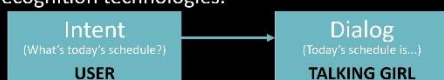


### 2. Processes

We used Watson Assistant™ from IBM as the basis for creating the application. We also learned how to use it through visits to Miyazaki University. In addition, we conducted a survey for Frontier Course students and teachers in order to consider what conversations dementia patients need and enrich the conversation patterns by ourselves.

### 3. What is Watson Assistant™

Watson Assistant™ is a platform for developing conversation applications such as chatbots, using machine learning techniques and natural language recognition technologies.



### 4. About the survey

As a result of the survey mentioned in Chapter 2, the following result was obtained. (i) Talking about themselves, (ii) Not having a negative attitude, (iii) Talking about near future. We decided to actually implement (i) and (iii) particularly because they are things that can be done by an AI like Talking Girl.

### 5. Development Environment

Windows 10/11, Windows Subsystem for Linux, IBM Watson Assistant, IBM Watson Text-to-Speech

### 6-1. About Talking Girl overall

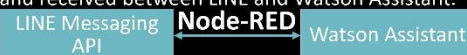
Talking Girl's features include natural language recognition using Watson Assistant™ and is entirely dedicated to talking with the elderly and dementia patients. Also, it can be integrated with LINE™ so that can be used by a large number of people through a well-known social networking application.



Watson can understand a variety of contexts. The figure above is an example, where the same single intent is taken from different contexts.

### 6-2. Integration with LINE™

By obtaining a unique Channel Access Token from LINE Messaging API, it is possible to send and receive webhooks to and from Node-RED using Bearer Token. Also, Watson Assistant can also send and receive webhooks to and from Node-RED using its API Key. By linking both LINE and Watson Assistant with Node-RED, messages can be sent and received between LINE and Watson Assistant.



### 7. Future Prospects

Allowing conversations by voice → The elderly are thought to be not used to using computers.  
 Conducting practical tests in nursing homes for about a week → To verify if the application is effective actually.  
 Creating actual application, integration with other services → To improve User Experiences.  
 Enriching the conversation patterns → To broaden the scope of the conversations.

### 8. References

[https://www.geekly.co.jp/column/cat-technology/1903\\_076](https://www.geekly.co.jp/column/cat-technology/1903_076)(Recent Examples of AI Applications)  
<https://www.ninchisho-forum.com/>(Dementia Forum.com—Basic Knowledge of Dementia)  
 Research on The Future Estimation of The Elderly Population with Dementia in Japan(In Japanese)(By Toshiharu Ninomiya et al, 2014)  
<https://www.buildinsider.net/enterprise/wsl/01>(Build Insider—What is Windows Subsystem for Linux?)

## V 宮崎県高等学校課題研究発表大会（令和2、3年度）

主催

宮崎県教育委員会

目的

普通科系専門学科等の設置校では、総合的な探究の時間及び課題研究において、生徒自らが設定した課題を探究し、その課題に対して多角的・複合的に事象を捉え、課題を解決するために必要な資質・能力の育成を目指した探究型学習が実践されている。各校の探究型学習における代表作品のプレゼンテーション発表・鑑賞を行うことで、多様な学校・生徒間で発表内容を共有し、互いに切磋琢磨して新時代に必要な資質・能力の育成を図る。

日時

- 9：20～ 9：40 開会式
- 9：50～12：00 オンライン発表
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～13：50 講演会
- 14：00～14：30 閉会式



オンライン発表の様子

参加作品テーマ

令和2年度	
①	インフルエンザの予防は予防接種だけじゃない！？これでインフルエンザ怖くない！！
②	チーズ饅頭の特産品としての可能性はあるのか？
令和3年度	
①	みんなが自分らしく生きる社会を目指して
②	打倒！ウイルス ～はじめの一手～



VI 第3回高校生サイエンス研究会 in 第一薬科大学 2021 および  
第4回高校生サイエンス研究会 in 第一薬科大学 2022

主催

第一薬科大学 日本薬科大学 横浜薬科大学

目的

高校生のプレゼンテーション能力向上と研究・開発への意欲向上

日時

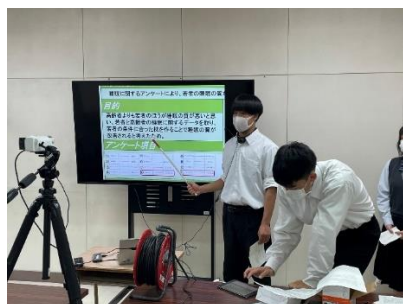
発表日	時間
令和3年 3月18日	16:30～17:00 (2班)
3月19日	16:40～16:50 (1班)
令和4年 3月14日	16:45～17:40 (4班)

参加作品テーマ

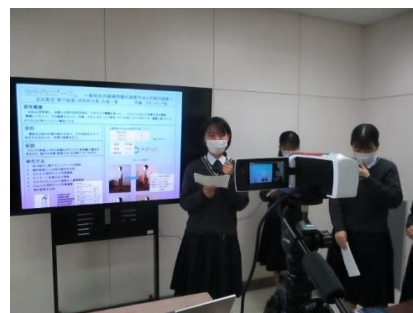
令和2年度
①色素と温度の関係性
②私たちの枕が世界の若者を救う！！
③カラダにピース。～高校生の健康問題の対策と提案～
令和3年度
①臍帯血を人々に広める
②未来都市 ～持続可能な都市設計～
③子ども・子育て応援プロジェクト
④若者 support project

内容

全国の高校に募集をかけ、年々参加校が増加している発表会である。令和2年度はオンラインのみ、令和3年度はオンライン&対面でのハイブリッド形式の発表会であった。大学の先生も数多く参加しており、専門家にアドバイスをもらうことのできるいい機会になっている。今後も是非参加させたい発表会の1つである。



発表の様子①



発表の様子②

# 色素と温度の関係性

古川亜宮菜 松井空 河原真由子 上田吏桜

## ◆ 研究概要

リンゴやブドウなどの果実は温度によって着色不良が起こる。それには、色素の「アントシアニン」が関係していることが分かったため、色素が温度によってどのように変化し、それが植物にどう影響を与えているのかを調べた。りんごやぶどうでは、実験ができにくいと判断し、手頃のできる「コスモス」の花を用いて、対照実験を行った。そこから、分光光度計を用い、測定を行い、考察を行った。

## ◆ 目的

アントシアニンは、低温のほうが合成されやすく、植物の「自己防衛機能」としてはたらいていることが分かっていた。しかし、高温になると、アントシアニンは合成されなくなるのかという疑問を抱き、さらに、アントシアニンの合成には適正な温度があるのかどうかも確かめたいと思ったため、色素と温度の関係性について、実験を行って調べることにした。

## ◆ 実験方法

### 切り花コスモスによる温度変化の比較

- ①実験にはコスモスの花を使用した。花は、あらかじめ枝を切って水につけた状態にしておいた。
- ②コスモスの花をひなたと日陰の二か所に分けて置いた。
- ③温度以外の条件を同じにするため、黒の画用紙を内側に貼った箱で花を覆い、直射日光を避けた。また、箱の側面には穴を開けておき、通気性を良くしておいた。
- ④毎日17時に写真を撮り、観察、記録をした。

### アントシアニンの抽出

- ①10日後、コスモスの花弁50枚を採取してすり潰し、99.9%エタノールにすり潰した花弁を加え、色素を抽出した。
- ②抽出した液を用い分光光度計を使って、アントシアニンにどのような変化があるのかを調べた。

## ◆ 結果① 見た目の変化

日陰(平均温度19.0℃ 最高温度20.1℃)



実験前と比べると、同じ花の色の赤見が少し強くなっているように感じた。

ひなた(平均温度24.8℃ 最高温度35.0℃)



実験前と比べると、同じ花の色の赤見が少し強くなっているように感じた。しかし、日陰よりは赤みが薄く感じた。

※光は箱を覆うことによって遮断されているため、「日陰」「ひなた」と表記しているが、ここでは光は関係ないものとする。

## ◆ 参考文献

- ・温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか。 著者 杉浦俊彦
- ・<https://japanknowledge.com/introduction/keyword.html?i=185> 日本大百科全書・世界大百科事典
- ・[http://www.tomo-green.com/public\\_html/technical/management-20180102-1.pdf](http://www.tomo-green.com/public_html/technical/management-20180102-1.pdf) アントシアニンが発生するわけ
- ・<https://imacocollabo.or.jp/about-sdgs/> イマココラボ SDGsとは？

## ◆ 結果② 抽出液の様子



1. **日陰**  
日陰に置いていた花弁からはすり潰すことができた色のついた抽出液が取れた。

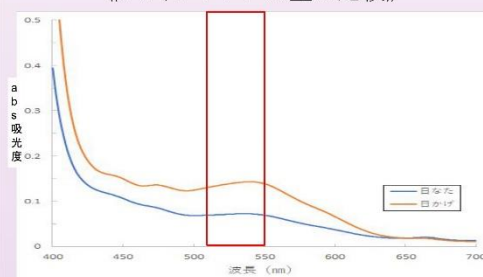


2. **ひなた**  
ひなたに置いていた花弁からはすり潰すことができた色のついた抽出液が取れた。しかし、ひかげのほうが色が濃い。

## ◆ 結果③

### 分光光度計を用いた吸光度による比較

《アントシアニンの量の比較》



この結果により、吸収している波長が520nm～550nmであった。その結果によりアントシアニンが抽出できたと考え、日陰の方がひなたよりアントシアニンが多く含まれていることが分かった。

## ◆ 考察

コスモスのアントシアニンは、温度によって量に変化が現れることが分かった。アントシアニンの合成には、最適な温度があるのではないかと考えられる。しかし、今回は実験前のコスモスに含まれるアントシアニンの量のデータを取っていないため、実験後のコスモスに含まれる、アントシアニンの正確な量を、知ることができなかった。今回の経験を踏まえて、次に実験を行う際には、実験前と後を比較できるデータを残しておきたい。また、近年の環境問題として、「地球温暖化」が挙げられる。地球温暖化の加速に伴い、地球全体の平均気温が上昇し、植物が育ちにくい環境になる。SDGsの13項目の「気候変動に具体的な対策を」と関連づけると、高温な環境でも育つ植物の品種改良が必要になると考えられる。それは必然的に、アントシアニン合成の平均適正温度の上昇も課題になるのではないかと。上手くいけば気候に関係なく様々な果菜類が、世界中どこでも育てることができると考えている。

# 私たちの枕が世界の若者を救う!?

氏名 東 中間 中山 巢山

## 研究概要

睡眠に関するアンケートにより、若者の睡眠の質がよくなかったため、若者に合った条件の枕を作った。

### 目的

高齢者よりも若者のほうが睡眠の質が悪いと思い、若者と高齢者の睡眠に関するデータを取り、若者の条件に合った枕を作ることで睡眠の質が改善されると考えたため。

### アンケート項目

① 寝たい	⑤ 寝る時間	⑨ アラームが鳴る	⑬ 寝る場所
② 寝る場所	⑥ 寝る姿勢	⑩ 寝る回数	⑭ 寝る時間
③ アラームが鳴る	⑦ アラームが鳴る	⑪ 寝る場所	⑮ 寝る場所
④ 寝る時間	⑧ 寝る場所	⑫ 寝る回数	⑯ 寝る時間

### 方法

- 高齢者と高校生に対して、
  - ・枕の柔らかさについて(スポンジを用いて)
  - ・枕の高さ
  - ・今使っている枕の手触り
  - ・1日の平均時間
- ・睡眠に不安や悩みがあるかについてのアンケートを取り、高校生と高齢者の睡眠状況について調べる。
- ・得た情報をもとに枕を作り、実際に寝てもらい睡眠の質が上がったかを確認する。
- ・今使っている枕を気に入っているか

### 高校生対象アンケート結果

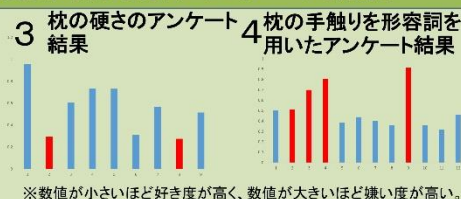


※数値が小さいほど好きが高く、数値が大きいほど嫌い度高い。  
 グラフ1より2, 6, 8のスポンジが好まれることがわかった。表2より好き嫌いを考慮して手触りの重回帰分析をしたところ乾いていて、ぬるぬるしている手触りが好まれることが分かった。また、高さが9cm、睡眠時間が一日平均6時間、睡眠に悩みがある人を1、ない人を0とおいて平均値をとると、0.80という数値より睡眠に悩みがある人は多いことが分かる。

### 硬さの違うスポンジ素材



### 高齢者対象アンケート結果



グラフ3より2, 8のスポンジが好まれることがわかり、グラフ4より重厚で、ヒヤッとしない、滑らかな、チクチクしない手触りが好まれることが分かった。また、高さが9cm、睡眠時間が一日平均7時間、睡眠に悩みがあるかについても先ほどのように平均値をとると0.25という数値より睡眠に悩みがある人が少ないことが分かる

### 枕の作成



普段使っている枕と作成した枕の睡眠状態・無呼吸低呼吸の指標

MY	平均値	オリジナル	平均値
pAHI	2.2	pAHI	1.8
REM	13.2	REM	14.8

### 結論

結果1と2より、高齢者と若者を比べると、若者のほうが睡眠に関しての悩みが多かった。若者の好み条件に合った素材8の硬さで、乾いていてぬるぬるしている手触りの、高さが9センチの枕を制作した。ウォッチパッドを使って睡眠の質のデータを取ることがで、睡眠の質が改善されたことが分かった。

### 今後の展望

1人の若者にウォッチパッドという睡眠の質が改善されたかを測定したが、データ量が少なく正確なデータが取れなかった。だからより多くの人に測定してもらおう。

### 謝辞

今回の研究にあたりまして、熱心なご指導をいただいた宮崎大学工学部田村宏樹教授に感謝の意を表します。また、枕制作にあたって、都城市有限会社マキタ義肢さんにも協力していただきました。ここに、感謝の意を表します。

## カラダにピース。 ～高校生の健康問題の改善方法と対策の提案～

吉田真澄・飯干結菜・河原明日香・久島一葉 所属 フロンティア科

### 研究概要

InBodyを計測し、各個人の体の状況を知る。そのうえで課題を見つけ、一人ひとりに応じた改善方法を提案し、実践してもらう。その結果をもとに、今後、どのようなことに気をつけて生活していけばよいか、健康に過ごすことができるか考えてもらう機会にする。

### 目的

高校生の体の状態や悩みを知り、その内容をもとに何をすればよいか、対策の提案を行う。

### 仮説

だれでも気軽にできる体操を行うことで、筋肉量が増加が見込まれ、悩みの改善(猫背がよくなる等)にもつながる。

### 研究方法

- 1 体の悩みに関するアンケートの実施
- 2 集計結果から全体の傾向を分析
- 3 Inbodyの測定および写真撮影
- 4 モニターに改善方法の提案
- 5 それぞれ与えられた提案を2週間実施
- 6 Inbodyの測定および写真撮影
- 7 測定結果を分析



- ① 体成分分析
- ② 肥満・指標
- ③ 部位別体脂肪量
- ④ 部位別筋肉量
- ⑤ 体重調節
- ⑥ 総合評価
- ⑦ 研究項目
- ⑧ 運動別消費エネルギー量

2週間前とのInbody点数の比較 (17人)

初回と同じ	9	P値 0.007304
上がった	0	
下がった	8	

点数	平均値
初回	76.88
2週間後	76.17

下がった

モニターの結果



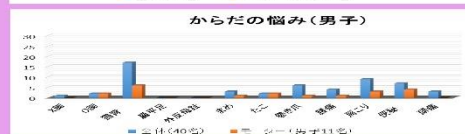
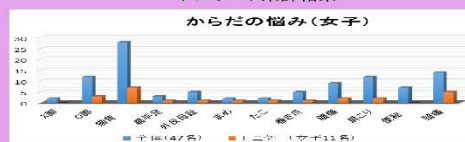
やっている間は実感がわかなかったですが、比較してみると変化を実感できたので続けていきたいです！  
(N君)



運動はきつかったけど頑張ってきたと思うことができました！  
(O君)

### 結果

アンケート集計結果



ストレッチの一例



### 考察

2週間後のInBody測定の結果から、全体的に若干Inbody点数が下がった。そこでT検定を行い、p値を求めたところ0.05以下となり、この数値は有意差があることが分かった。今回は2週間という短期間での実施のため、体の悩みの解決にまでは至らず、十分な期間を設けて、検証していくことが必要だと考える。

### 今後の展望

運動メニューが最適なものであったか、再検討し、モニターに提案を行う予定である。また、モニターの人がしっかりと取り組んでいるか、定期的に確認していきたい。

### 謝辞

宮崎大学医学部看護学科 鶴田 来美先生・吉永砂織先生に本当にお世話になりました。ありがとうございました。

### 参考URL

<https://www.inbody.co.jp/>

## (2) 成果発進

### ①実施項目

実施項目
I 小論文指導
II 宮崎大学 学部説明会

### ②各項目の内容

#### I 小論文指導

##### 目的

小論文講演会実施後、副担任による小論文指導を行い論理的思考力を養う。

##### 日時

総合的な探究の時間

##### 内容

テキストを用い小論文の指導を行った。

#### II 宮崎大学 宮崎大学学部説明会

##### 目的

進学目的が明確になり、進路実現への意欲を高める。

##### 日時

総合的な探究の時間

##### 内容

宮崎大学進学希望者に対して興味のある生徒に対し、研究内容の説明、研究室訪問、大学生から話を聞く等を行った。参加生徒は、オープンキャンパス等がオンラインになる中、実際に大学の先生の話などを聞くことができ、非常に良かったと多くの意見が聞かれた。

#### 4 その他の活動

##### 4-1 令和3年度地域連携企画一覧

##### 4-1-1 宮崎市役所への壁画寄贈

###### (1) 目的及び内容 4月22日

昨年度、本校2学年（現3学年）の5名（以下探究チーム）は、新型コロナウイルスの影響によって、発表の場を失った高校生や、活気を失った街に何かできないか、更に前線で戦う医療従事者の方々へ感謝の気持ちを伝えたいと考え高校生発案のイベント「MIYAZAKI High School Festival～あつまれ高校生の森～」を宮崎市と計画した。この計画は本校生徒だけでなく、本校生徒の考えに共感してくれた宮崎海洋高校や本庄高校のも主となって計画。しかし、感染状況は更に悪化し、このイベントも中止となった。イベント中止の決定を受け、自分たちにできることを試行錯誤し、本校書道部、美術部と合作の壁画を完成させ、宮崎市役所に寄贈した。



寄贈した壁画（上） 絵の中心に書かれた「勇往邁進」とは『ひるまず、ためらわず、ひたすら目標に向かって真っ直ぐ進む』という意味が込められている。

令和3年4月22日宮崎市より感謝状贈呈（右）

「この作品を見た市民のみなさんが、少しでも前を向いてくれたら」という想いを伝えた。



4-1-2 宮崎県総合政策部総合政策課との連携事業（フロンティア科1年）の開催

(1) 日時 第1回 令和3年10月29日（金）13:50～15:50

第2回 令和4年 1月14日（金）13:00～16:00

※第2回は新型コロナウイルスの感染状況悪化のため、中止

(2) 内容及び目的

本県では「経済的なゆたかさ」と「お金には代えられない価値」との両方が調和した「新しいゆたかさ」の実現を目指している。しかし、「ゆたかさ」は人によって感じ方が異なり、数字で測ることが難しいため、共通のものさしとなる「ゆたかさ」を見える化した「ゆたかさ指標」を平成29年に作成した。県民へのこの指標の周知を図るため、今回は文科省事業「地域協働事業・地域魅力化型」に指定されている本校と飯野高校において、「総合的な探究の時間」の授業を通して、本県及び宮崎市、えびの市の客観的な良さや課題を生徒間で共有する。

(3) 第1回 実施の流れ

13:50 本校育鵬館 集合完了

13:50～14:00 開会行事

14:00～14:30 ミニ講義

講義 「宮崎県のゆたかさ指標について」

【講師】 宮崎県総合政策部総合政策課 山下亮介氏

14:35～15:45 チーム探究ワークショップ（途中休憩あり）

※ 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校の指導を参考

15:45～15:50 閉会行事

(4) 指導用パワーポイント

令和3年度  
宮崎市ゆたかさシンポジウム



【チーム探究WS】

「私たちが暮らす  
宮崎市の『ゆたかさ』とは？」

【チーム探究WS】

【グループ活動①】(8分)

この宮崎市ならではの「ゆたかさ」を思いつكما  
ま書いてみよう！

※1人**10枚以上**を目標とする

**ヒト**  
地域住民の  
ゆたかさ

**モノ**  
地域環境の  
ゆたかさ

**コト**  
地域文化の  
ゆたかさ

【チーム探究WS】

【グループ活動②】(8分)

チームで集めた「ゆたかさ」から  
自らの**最高の1枚**を選びましょう！

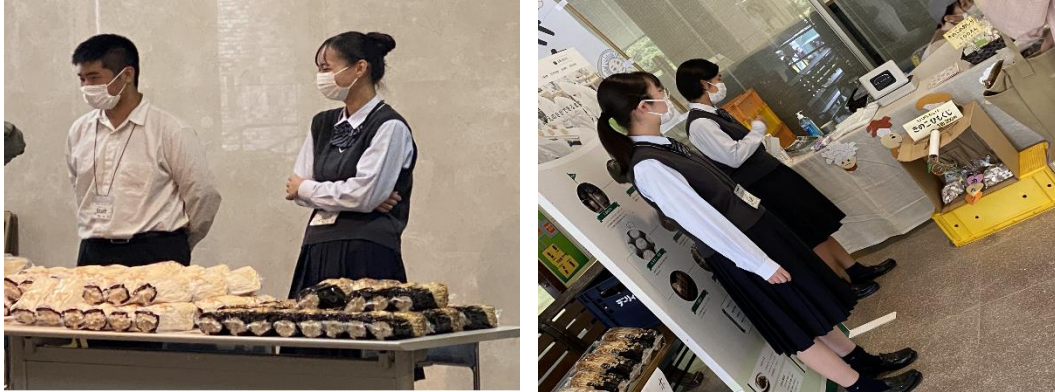


- ①グループ全員に1枚ずつ配る
- ②残ったカードを裏返して山にする
- ③山の一番上のカードを取る
- ④手元の2枚の中から1枚を選ぶ  
※捨てカードは1箇所に集める
- ⑤山がなくなったら捨てたカードで  
もう一度山を作って繰り返す

#### 4-2 生徒課題研究実践例

##### 4-2-1 宮崎県総合博物館で実施されたイベント「発見！きのこランド」への参加

○内容：本県には世界でも珍しい、光るきのこ「エナシラッシタケ」が群生している。この事実を宮崎県民に知ってもらうことのできのこの話題を広め、県外に広まることを目標とし、イベントへ参加した。



イベントで販売やきのこの説明のボランティアに参加する様子

##### 4-2-2 宮崎市子ども未来部親子保健課にパンフレット配布の依頼

○内容：本県の医療について調べていく中で、本県の白血病の死亡率が他県に比べ高いことがわかった。また、白血病には臍帯血を用いた治療が有効であり、このことを広く周知してもらうことを目的としてパンフレットを制作。宮崎市子ども未来部親子保健課に妊婦の方々への配布を依頼した。



パンフレット贈呈の様子

##### 4-2-3 企業と協力した人材育成 宮崎市運営情報サイト 20do 掲載

○内容：宮崎で育った多くの若者は高い技術を求めて県外で就職している。そこで宮崎の高校と宮崎の企業が協力してニーズに合った人材を育成することで必要な技術力を身につけられ県外流出もくい止められるのではないかと考え、アプリ使用の啓発に取り組んだ。



宮崎の IT 企業 クラブ（株）様との対談の様子



#### 4-2-4 人口減少問題に関するワークショップへの参加

○内容：宮崎市の合計特殊出生率は、全国と比較して高い水準にあるものの、人口減少の勢いが加速しており、人口減少や少子化に歯止めをかけるためには、子育て世代の負担軽減を図ることが重要だと考え、支援策の中で高校生自らが取り組める案件を検討し、赤江東中学校と連携し寺子屋事業を実践した。



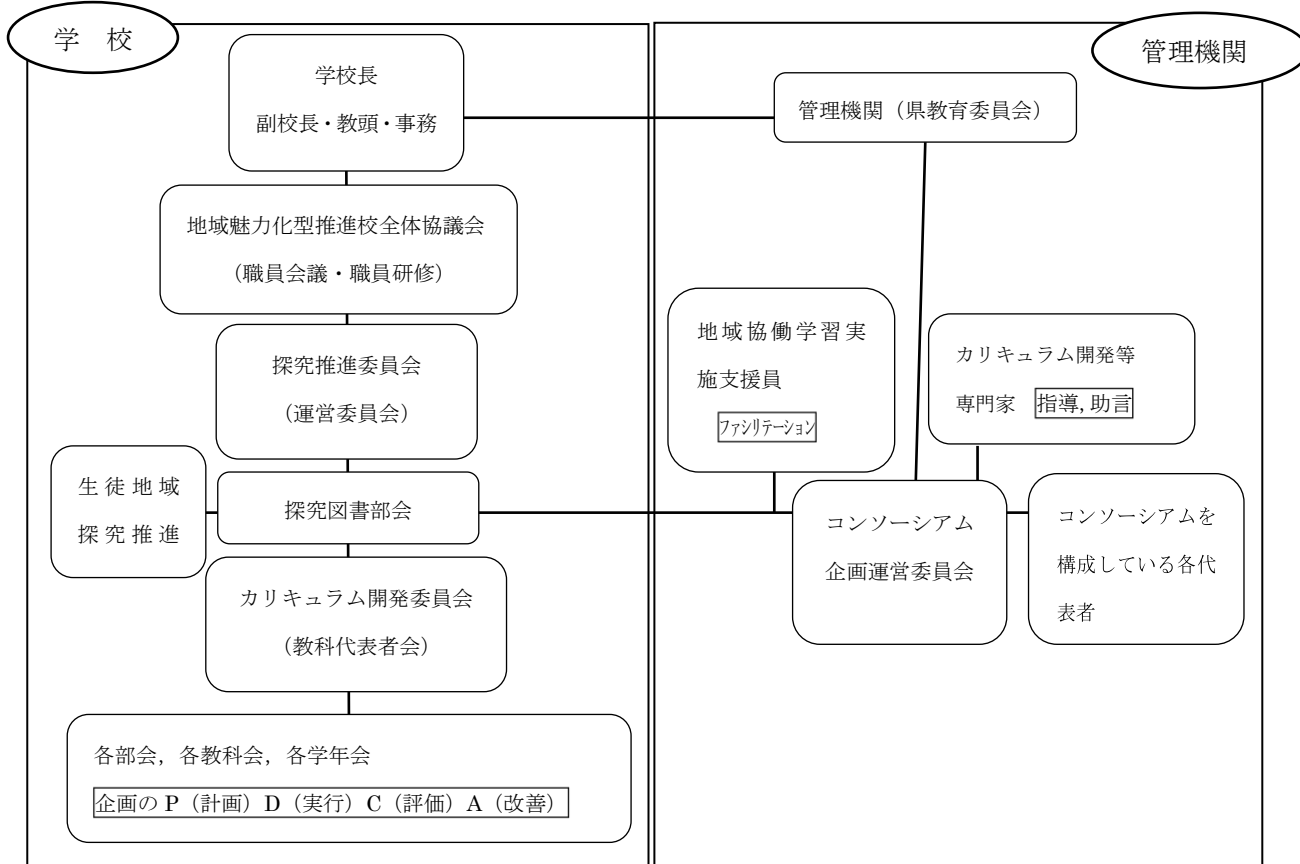
赤江東中学校にて中学生に勉強を教える様子

#### 4-3 探究図書部会実施記録

実施回	実施日	内容
第1回	4月2日	努力目標、スローガンの検討、役割の決定
第2回	4月22日	今年度の「総合的な探究の時間」の概要 外部訪問予定について
第3回	4月28日	2学年職員研修について、課題研究班の進捗状況報告
第4回	5月11日	1年指導計画について、インターンシップ予算計画について、2年班分け について、MSECフォーラムについて、コンソーシアム会議について、運 営指導委員会について
第5回	5月17日	2年班長会について、校外活動について
第6回	5月26日	計画発表について、理科室使用承諾書について
第7回	6月9日	1学年指導計画について、2年班長会について
第8回	7月7日	2年計画発表について、MSECフォーラムについて、1年トリコンテーマ について、運営指導委員会について
第9回	7月13日	MSECフォーラム反省について、学期反省について
第10回	9月8日	トリコン担当団体講義について、2年中間発表について
第11回	9月22日	2年中間発表について、ゆたかさ指標の授業について
第12回	10月6日	1年中間発表について、2年生徒発表大会と1年鵬イノベーションコンテス ト発表大会計画について
第13回	10月13日	1年と2年の中間発表反省について、
第14回	10月22日	2年職員研修会について、2年生徒班長会について
第15回	11月10日	1年職員研修会について、1年生と班長会について
第16回	12月1日	2年生徒発表大会と1年鵬イノベーションコンテスト発表大会計画につい て
第17回	12月8日	2年生徒発表大会と1年鵬イノベーションコンテスト発表大会計画最終確 認について
第18回	1月12日	次年度の計画について（自走に向けて）①
第19回	2月9日	次年度の計画について（自走に向けて）②
第20回	3月16日	次年度の計画について（自走に向けて）③

## 5 関係資料

### 5-1 校内外組織図



#### 校内組織図の名称と機能

地域魅力化型推進運営指導委員会	学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、民間等によって組織し、専門的見地から地域魅力化型研究開発に関して指導、助言にあたる。
コンソーシアム企画運営委員会	コンソーシアム構成各団体代表者と本校代表者との連絡会議。表2の達成すべき指標の結果をもとにカリキュラムの改善を図る。
地域魅力化型推進校全体協議会	地域魅力化型研究開発を学校全体の取組として共通理解を図るための組織とする。校内全ての教職員で構成され、事業推進のための職員会議と職員研修を実施する。
探究推進委員会	地域魅力化型研究開発を学校全体の取組として推進する組織とする。1・2学年の主任と1・2学年担当(担任)で構成し、事業(行事、評価等)や授業研究等の取組を学校全体に広めていく。
探究推進部会	地域魅力化型研究開発の総務として各教科、各部会に企画を提案し実施に向けてコンソーシアムとの協議、連携を図る。
カリキュラム開発委員会	各教科の代表者から組織され、教科横断的なカリキュラム開発を行う。
生徒地域探究推進部会	生徒の希望者から組織され、地域魅力化型研究開発の学習活動における主体的・自治的な活動を推進する。探究図書部会と連携し、企画・運営・総括等を行う。

5-2 教育課程表

令和3年度 教育課程単位数表 (A表)

宮崎南高等学校 全日制

教科	学科		普通科								フロンティア科				備考
	学年		2年		3年				2年		3年				
	科目	単位	文系	理系	文Ⅰ	文Ⅱ	理系(数Ⅱ)	理系(数Ⅲ)	文系	理系	文系	理系			
国語	国語総合	4	5								5		「国語総合」必修		
	国語表現A	3													
	現代文A	2													
	現代文B	4	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2			
	古典A	2													
地理歴史	世界史A	2	2								2		小史でBで「世界史」選択地歴はAかB		
	世界史B	4	3	3	4	4	4	4	3	3	4	4			
	日本史A	2													
	日本史B	4													
	地理A	2													
公民	現代社会	2	2								2		部「現代社会」必修又は		
	倫理	2													
	政治・経済	2													
	*基礎からの公民	3~7	3		4	4			3		4				
	*倫理・政経演習	4													
数学	数学Ⅰ	3	3								3		「数学Ⅰ」必修		
	数学Ⅱ	4	4	4											
	数学Ⅲ	5						6							
	数学A	2													
	数学B	2	2	2											
	数学活用	2													
	*数学探究Ⅰ	4				3	4								
	*数学探究Ⅱ	2				2	2								
理科	*総合数学	2			2										
	科学と人間生活	2	2								2		基「科学と人間生活」を各科目必修科目又は		
	物理基礎	2		2						2					
	物理基礎理	4		2							2				
	化学基礎	2	2	2			5	5	2	2					
	化学基礎理	4		2						2					
	生物基礎	2	2				5	5				4			
	生物基礎理	4													
	理科課題研究	1													
	*化学基礎探究	3				3					3				
*生物基礎探究	3				3					3					
保健体育	*総合理科	2			2										
	体育	7~8	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3		
	☆スポーツ総合演習	1~6	1	1	1	○				1	1	1			
芸術	音楽Ⅰ	2	2								2		必修「音楽」・美術Ⅰ・書道Ⅰを選択		
	音楽Ⅱ	2	2	1											
	音楽Ⅲ	2													
	美術Ⅰ	2													
	美術Ⅱ	2													
	美術Ⅲ	2													
	書道Ⅰ	2													
外国語	書道Ⅱ	2													
	書道Ⅲ	2													
	コミュニケーション基礎	2													
	英語コミュニケーションⅠ	3	3								3		必修「コミュニケーション英語Ⅰ」		
	英語コミュニケーションⅡ	4	4	4											
	英語コミュニケーションⅢ	4													
	英語表現Ⅰ	2			4	4	3	3							
英語表現Ⅱ	4	2	2	2	2	2	2								
英語会話	2			2											
家庭	2	2								2					
情報	☆フードデザイン	4			4										
	社会と情報	2													
	*探究基礎情報	2	2								2		代科必修目録に修		
理数	数学Ⅰ	4~8	6								6				
	数学Ⅱ	6~14							4	4	3	4			
	数学特論	2~8							2	2	2	2			
英語	総合英語	3~12							3	3	2	2			
	英語理解	3~10													
	英語表現	3~10							3	2	4	4			
	異文化理解	2~6							2						
総合科目	時事英語	2~6													
	*総合科学Ⅰ	1							1	1					
計	*総合科学Ⅱ	1													
	教科・科目総単位数		32	32	32	32	32	32	32	31	31	33	33		
	総合的な探究の時間		1	1	1	1	1	1	1	2	2				
	特別活動		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	計		34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34		

普通教科・科目中に記載されている\*印の科目は学校設定科目を示す。  
 普通教科・科目中に記載されている☆印の科目は専門科目を示す。

# 令和3年度入学生の3ヶ年の教育課程単位数表 (C表)

宮崎南高等学校 全日制

教科	学科		普通科						フロンティア科				備考			
	学年		1年	2年		3年				1年	2年			3年		
	科目	単位		文系	理系	文I	文II	理系(数II)	理系(数III)		文系	理系		文系	理系	
国語	国語総合	4	5							5					国語総合 — 必修 —	
	国語表現	3														
	現代文A	2														
	現代文B	4		3	3	3	2	2	2		3	3	2	2		
	古典A	2														
地理歴史	世界史A	2	2	3	3	4	4	4	4	2	3	3	4	4	小史で—世界史— 日・—歴史— 選択—地理—は 必修—本Aか AはAかB	
	世界史B	4														
	日本史A	2														
	日本史B	4														
	地理A	2														
公民	現代社会	2	2							2					世—現代社 会— 経済—社 会— 必修—又 は	
	政治・経済	2														
	*基礎からの公民	3~7		3		4	4				3		4			
	*倫理・政経演習	4														
	数学I	3		3	4	4										
数学II	4	1	4	4												
数学III	5							6								
数学A	2	2	2	2												
数学B	2															
数学活用	2															
*数学探究I	4					3	4									
理科	*数学探究II	2					2	2								
	*総合数学	2				2										
	科学と人間生活	2	2							2					基—科 学と人 間生活 —を 含む 必修 科目 又は	
	物理基礎	2														
	物理	4			2	2							2			
	化学基礎	2		2	2						2	2				
	化学	4							5		5					
生物基礎	2	2									2			4		
生物	4															
理科課題研究	1															
*化学基礎探究	3						3					3				
*生物基礎探究	3						3					3				
*総合理科	2				2											
保健体育	体育	7~8	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	必—体 育— 必修	
	保健	2	1	1	1				1	1	1					
芸術	☆スポーツ総合演習	1~6				○									必 音 楽 — 美 術 — 書 道 1 を 選 択	
	音楽I	2	2	2	1	○	○	○	○	2						
	音楽II	2														
	音楽III	2														
	美術I	2														
	美術II	2														
	美術III	2														
書道I	2															
外国語	コミュニケーション基礎	2													必 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 英 語 I	
	英語コミュニケーション	3	3	4	4	4	4	3	3							
	英語I	4														
	英語II	4														
	英語III	4														
	英語表現I	2														
	英語表現II	4														
英語会話	2															
家庭	家庭基礎	2	2							2						
	家庭総合	4														
	生活デザイン	4														
情報	☆フードデザイン	4				4									代 科 必 修 に 修	
	社会と情報	2	2							2						
理数	*探究基礎情報	2														
	理数数学I	4~8								6						
	理数数学II	6~14									4	4	3	4		
理数数学特論	2~8								2		2	2	2			
英語	総合英語	3~12	3	3	3	2	2	2	2	3	3	2	2			
	英語理解	3~10														
	英語表現	3~10														
	異文化理解	2~6														
時事英語	2~6	2														
総合科学	*総合科学I	1	1							1	1					
	*総合科学II	1														
教科・科目総単位数			32	32	32	32	32	32	32	32	31	31	33	33		
総合的な探究の時間			1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	0	0		
特別活動			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
計			34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34		

\*印の教科・科目は学校設定教科・科目を示す。  
普通教科・科目中に記載されている☆印の科目は専門科目を示す。

観光増へSNS活用

スギのアクセサリー



吉田産業で出高前の木材を見学する宮崎南高の生徒

宮崎市・宮崎南高 26日、日南、串間市の(倉)吉田産業社長、10企業を訪れ視察研修を74人のフロンティア行った。講師や施設員と科1年生84人は7月学を通して地場産業の

## 県南産業の活性化策は

### 宮崎南高生が視察研修

宮崎南高生が視察研修  
 現況と課題を学び、解決策や活性化策について考えた。  
 進路への関心を高め、自身の適性などについて考える授業の一環。生徒は各班に分かれ、製材業の吉田産業(日南市)と甘藷の生産や加工販売を手掛けるくしまオリーブファーム(串間市)を訪問した。  
 このうち吉田産業では、担当者が見学するまでの過程などを

説明。日照量や豊富な雨量を生かし、本県のスギ丸太生産量が30年連続日本一になっている一方、国内の木材自給率が4割以下という現状を紹介した。  
 その後生徒は一本県の観光客を増やす方法「県産杉の新たな活用方法」などについて考察。「SNSを活用した特産品のプロモーション企画」「アクセサリーに活用する」など多彩なアイデアを出し合った。  
 狩原如(き)さんは「木の伐採から出荷するまで数々の工程があることを知って驚いた。環境を守り続けるためにも、若い世代が今から意識しなければならぬ」と話していた。

(武藤太郎)

日南  
串間

## 学力低下連鎖断ち切れ



持続可能な社会

## 宮崎南高生 小学校教諭から学ぶ



宮崎南小を訪れ、教員に関するレクチャラーを受けた宮崎南高の2年生ら

総合的探究の時間に「教育」を選択している宮崎市・宮崎南高普通科2年の5人が16日、研修で同市の宮崎南小を訪ね、4年生担任の佐多修

教諭(しゆ)と座学を行った。現場での指導法を学び、教育への理解を深めた。  
 5人は全員が教員を志望しており、4月から「貧困による学力低下の連鎖を断ち切るための授業のあり方」をテーマに研究。30代の頃、宮崎大の教職大学院で1年間、高度な教育専門知識を学んだ佐多教諭にレクチャーを依頼した。

生徒は、学力の差なく

するための対応などを質問。佐多教諭はグループ形式で行った授業を紹介し、「チームで答えを導くようにすることで、子どもが手助けするようになり、全体の習熟度も上がる」と話した。  
 最後に佐多教諭は「情熱を持ち続け、理想とする先生を目指してほしい」と生徒たちにエールを送った。日高彦雄(ひ)さんは「きょう学んだことを先生になったときに生かしたい」と話していた。

生徒は今後、宮崎大で講義を受けるなどして研究を重ね、秋以降にある成果発表に臨む。

(中村和彦)

県  
央

# 高校発

みやざきSDGs

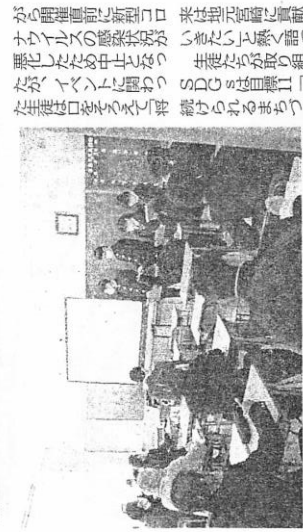
本校が文部科学省地域連携による高等学校教育推進事業「地域力型」に採択されている旨を迎える。県立2年間、多くの地域の大学行政企業にも連携いただいた。一例として「シミュレーション」と

目指す主な目標  
4 質の高い教育をみんなに  
SDGs

題し、地域の行政や企業・団体を「チーム」をもらい、答へ一つではない問いを「チーム」している。本年度も団体が「チーム」を組んだ。また、昨年秋は宮崎県庁と協働して、新型コロナウイルス感染症の「一環」として、生涯学習のイベントを企画。残念な

宮崎南 ④

## 多様な「答え」に挑戦



県イノベーションコンテストで発表する生徒たち

から開催前に新型コロナウイルスの感染状況が悪化したため中止となったが、イベントに関わった生徒は口をそろえて「将来は地元宮崎に貢献したい」と強く語った。生徒たちが取り組んだSDGsは目標11「住み続けられるまちづくり」だ。進学などで県外に離れ、地元が賑わってほしいという思いを「まち」として、自分たちが「まち」の未来を築いていく。そして、生徒たちが思い描いた姿は、国語の原書を読み返して、このように生徒たちの「イノベーション」から2年間の探究活動まで、彼らの周りには積極的に意見交換を促される地域の大人たちも存在する。その感嘆して、僕々には必要だが、地域で本校生徒を育てる環境が固まり、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」の実現につながっている。

（編集・河原義孝）  
白壁日報 ②

# 高校発

みやざきSDGs

本校は普通科1コース、2コースの学科を有し、理科で特設科を地域社会に関する探究活動を行っている。また、2019年に文部科学省「地域連携による高等学校教育推進事業」に採択された。地域連携が

目指す主な目標  
3 健康と福祉をみんなに  
SDGs

がSDGsを軸に入れた取り組みを強化している。その中から、3年生の取り組みを紹介したい。終には、血圧の測定が週に比べ高いことを知り、さらに調べていく。白血球は白血球の値が低いことが有効であることが分

宮崎南 ④

## 地域の課題 自分事に



宮崎市子ども未来部親子探検隊にパンフレットの配布を依頼する宮崎南高の生徒たち（右）

認してもらった。パンフレットを作成し、具体的には本部の担当者に配布してもらった。今後、探検隊のパンフレットを制作する。パンフレットの制作は、その理由である中

（編集・相田雅子）  
白壁日報 ②

# 高校発

みやざきSDGs

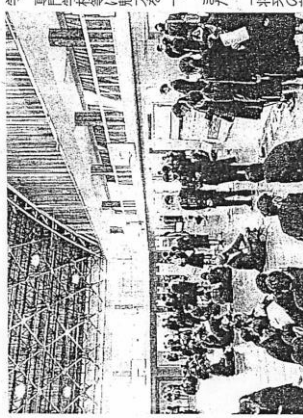
本校は生涯学習科1コース、2コースの学科を有し、探究活動の一環として、地域研究に取り組む。そのほか、地域連携を研究する。分館は、観光、教育、産業文化、農業、工業、食品、行政、医療など、様々な分野で、その成果を自分の校

目指す主な目標  
11 住み続けられるまちづくり  
SDGs

内、協議大会で、宮崎市内の大手の企業をはじめ、行政や地産地消、団体の方などから意見を聞く。このように、地域連携した探究活動を展開している。特に、近年は、年次地域の方々の指導を受けて、その成果として本校が独自に展開し、郷土に関する

宮崎南 ④

## 地域課題を研究、発表



3年生が行った2年次の課題研究発表大会の様子

ケ」で、確実な「変化」が認められた。例えば、1年生時、県外に進学した生徒は、10.0%であったが、2年生終了時点で、15.0%と低下した。また、1年生の就職率は、34.0%（県外：0.0%、未就：1.0%）であった。さらに、「地域の課題を自分ごと」として取り組むことが、県外に進学した生徒の就職率に大きく影響している。また、1年生の就職率は、34.0%（県外：0.0%、未就：1.0%）であった。さらに、「地域の課題を自分ごと」として取り組むことが、県外に進学した生徒の就職率に大きく影響している。

（編集・河原義孝）  
白壁日報 ②



みやざぎのボランティア・市民活動を応援しSDGsを推進する情報誌

# ミヤザギ大作戦

2021年夏号 No.9



【表紙】宮崎県立宮崎南高等学校、長瀬チームが制作したSDGsをテーマにした「男は過 勇に過 志に過」のポスター



K&R-REI, Inc. **みやみ**  
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

## CONTENTS

特集 因ス隊：長瀬のみやぎ2020	2
宮崎市民活動センターからのお知らせ	4
みやみ社協ボランティアセンター - 情報コーナー	6
Voice 宮崎県立宮崎南高等学校	7
MYGS&コミュニティーズ - MYG&からSDGsを学ぶ	8

### SDGs・ボランティア活動紹介

# Voice

☆両手に引き継ぎ、宮崎県立宮崎南高等学校の活動をご紹介します！



宮崎県立宮崎南高等学校 教諭 河原義郎先生

だが、疫情の影響を大きく受けることで、希望として作品に仕上げられ、本を基調とした道徳は、再び世界的に環境競争への意欲を志向している。

本校の探究チームのメンバーは、新型コロナウイルス感染が流行する以前から、地元宮崎県を舞台として定期的に自分たちが何が出来るのか考えてきたメンバーであった。このような考えに至ったのは、昨年から1学年時に進んだ本校独自の探究である「探究」や「探究イノベーションコンテスト」に出品するにあたってから。『他は皆に負けては、自分だけの力を発揮する』という思いが、探究イノベーションコンテスト」において、探究イノベーションコンテスト」から選出された。探究イノベーションコンテスト」から選出された。探究イノベーションコンテスト」から選出された。探究イノベーションコンテスト」から選出された。

彼らの中で書きたるはSDGsは目標1-1「住み続けられるまちづくりを」、目標1-3「持続可能な消費の促進」、目標1-10「人や国の不平等をなくすこと」など、SDGsの目標を軸に、探究イノベーションコンテスト」から選出された。探究イノベーションコンテスト」から選出された。探究イノベーションコンテスト」から選出された。

探究チームのメンバーは、探究イノベーションコンテスト」から選出された。探究イノベーションコンテスト」から選出された。探究イノベーションコンテスト」から選出された。

4月22日宮崎市役所にて「新型コロナウイルス感染症からの回復を願い希望を届ける元気にする絵画」の制作に関する説明会が実施された。

この制作は、昨年度、中止となったイベントの代わりとして開催された。5名のメンバーは、新型コロナウイルスの影響によって、卒業の機会を失った。また、道徳を失った何に何かがあっても、共に歩んでいくという思いが、探究イノベーションコンテスト」に出品された。この計画は本校生徒だけでなく、本校生徒の考えを共有して、探究イノベーションコンテスト」に出品された。この計画は本校生徒だけでなく、本校生徒の考えを共有して、探究イノベーションコンテスト」に出品された。

探究イノベーションコンテスト」に出品された。探究イノベーションコンテスト」に出品された。探究イノベーションコンテスト」に出品された。



# Voice



★新号につき続き、高崎県立聖徳高等学校の活動を二紹介します！ 高崎県立聖徳南高等学校

## 腸イノベーションコンテスト

本校では、昨年12月に「年次必読書ノベリッシュコンテスト」を開催している。予選に取組んだ約100名が「聖徳南高等学校」×SDGsをテーマに、学期の最初に発行される年報の団体・企業の商品を軸に、地域にまつべき活動を軸として提案するといふ取り組み。食・農業・工業・行政・スポーツ・医療・観光・教育・サイエンスの9分野に分けて審査している。今回は、以下の5分野に取組んでいて、各分野の最優秀者を表彰する。

私は教育分野に取組んでいますが、教員委員会からいただいた資料は、「高崎県立聖徳高等学校」です。その方が、各分野の最優秀者として、高崎県立聖徳南高等学校が、選出された。そのことが、表彰されました。そこで、私たちの場合は「高等学校での活動」を軸に、現場の生徒たちも参加し、この活動に参加したい。理由としては、自分たちが「聖徳南高等学校」で学んでいる中で、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。その思いは、私たちが、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。その思いは、私たちが、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。

高崎県立聖徳南高等学校 校長 志保

私は高崎県立聖徳南高等学校に取組んでいて、高崎県立聖徳南高等学校から、子供から大人まで参加し、参加できる環境構築イベントを開催しました。そこで、私たちの場合は、「PlayLife」を軸に、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。その思いは、私たちが、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。

高崎県立聖徳南高等学校 校長 志保

私は観光分野に取組んでいて、高崎県立聖徳南高等学校から、子供から大人まで参加し、参加できる環境構築イベントを開催しました。そこで、私たちの場合は、「PlayLife」を軸に、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。その思いは、私たちが、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。

高崎県立聖徳南高等学校 校長 志保

## 腸イノベーションコンテスト

私は教育分野に取組んでいて、高崎県立聖徳南高等学校から、子供から大人まで参加し、参加できる環境構築イベントを開催しました。そこで、私たちの場合は、「PlayLife」を軸に、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。その思いは、私たちが、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。

高崎県立聖徳南高等学校 校長 志保

私は高崎県立聖徳南高等学校に取組んでいて、高崎県立聖徳南高等学校から、子供から大人まで参加し、参加できる環境構築イベントを開催しました。そこで、私たちの場合は、「PlayLife」を軸に、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。その思いは、私たちが、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。

高崎県立聖徳南高等学校 校長 志保

私は観光分野に取組んでいて、高崎県立聖徳南高等学校から、子供から大人まで参加し、参加できる環境構築イベントを開催しました。そこで、私たちの場合は、「PlayLife」を軸に、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。その思いは、私たちが、高崎県立聖徳南高等学校の魅力を、自分たちから発信したいという思いです。

高崎県立聖徳南高等学校 校長 志保

6 添付資料

添付資料①

研究開発Ⅱ 生徒発表テーマ一覧		
研究分野	研究テーマ	
普通科	サイエンス (8)	VRによる英会話
		宮崎の持続可能な農業
		企業と協力した人材育成
		水の電気分解
	医療 (11)	宮崎県のがん検診率を上げるために
		医療的ケア児の未来のために
		宮崎の生理に関する理解について
		ゲーム依存症について
		自殺者数ゼロの宮崎へ
		避難所での健康維持
		臍帯血を入々に広める
		スポーツ医療 DVDを活用して高齢者が楽しく健康的な生活を目指すために～
		非常食の献立表
		HSPについて
	車イス専用雨具「シュパリズム」	
	観光 (8)	椎葉のカギを握るのは『農泊』
		南宮崎駅周辺の活性化～フードフェスタで街を元気に～
		江田神社の神話を伝える
		宮崎の観光でディベートバトル～地元の名産を食べ尽くせ～
		宮崎の魅力を海外へ
		泊まれ！集え！宮崎の若者たち！
		きのこによる地域活性化
		台湾の人に宮崎の魅力を発信する！
	教育 (10)	教師の労働の効率化 ICT教育の推進～
		学力貧困の連鎖を断ち切っていくための授業
		どげんかせんといかん 読書に触れない令和っ子
		音と学習における集中力の関係性について
		学食の設置を試みてみた！！！！！！！！！！
ICTを活用した授業をよりよくするために		
日本と世界の学力状況		
LGBTの人に対して教育機関の現状の論文まとめ		
教育革命		
教材の電子化		
芸術・文化 (4)	神巡り	
	はにわっこ	
	宮崎の神話を広める	
	地域活性化を目指して	
食 (7)	宮崎県の米の消費量アップ	
	栄養満点で手軽に食べられるおやつを作ろう！	
	食を通して高齢者と繋がろう	
	コロナに負けないお弁当	
	宮崎のマグロをすべての人に！	
	廃棄されるぎゅうりを無駄にしないために 宮崎のライチを宮崎に広めるために	

普通科	行政 (4)	子ども・子育て応援プロジェクト
		宮崎市の移住促進と空き家対策
		若者Support Project
		SDGsとふるさと納税の関わり
普通科	農業 (4)	目指せ！脱臭！！生ごみ活用！！
		好きな野菜を自分の手で
		雑草の大逆転劇！！～スギナの栄養高すぎな
		多肉植物の可能性
フロンティア ア科	工業 (4)	環境にやさしい素材～ポーラスコンクリートで新たな試み～
		自宅で作れる簡単消毒液の作成
		南ソーラープロジェクト
		歩き疲れない靴-インソールの効果について-
	農業 (2)	スマート畜産～畜産業にICTを利用して担い手不足を解消しよう～
		食品としての昆虫
	教育 (6)	自転車の危険運転が発生するメカニズム
		読書と文章を読む速さには関係があるのか！？
		Society5.0における本校の新たな学び方の可能性
		みんなが自分らしく生きる社会を目指して
		授業に全集中～授業中の睡魔解消を目指して～
	英語教育改革	
	地域創生 (2)	MAKE EVERYONE COMFORTABLE～文化の壁を越えた避難所づくりを目指して～
		海幸山幸で行く故郷新発見！！
医療 (1)	応急手当と医療用品の代用を広める	
看護 (3)	スマホと上手く付き合うには	
	献血×SDGs	
	打倒！ウイルス～はじめの一手～	
国際交流 (1)	食を通じた韓日交流	
法学 (2)	同性婚実現を目指して	
	セクハラで困っている人々を助けるためには？	
経済 (1)	羽ばたけ宮崎のライチ	

## 鵬 DP 評価（トリコン分野別発表）

評価		4	3	2	1	評価
<b>問題発見力</b> 課題を的確に捉え、捉えた課題から新たな視点や発見ができる力	3に加え、新たな発見ができている。	2に加え、 <u>多角的視点から課題の原因を捉える</u> ことができている。	2に加え、 <u>多角的視点から課題の原因を捉える</u> できている。	テーマをもとに地域や社会の課題を指摘できている。	テーマをもとに地域や社会の課題を指摘できていない。	
	3に加え、テーマに沿った情報を的確に取捨選択しながら収集することができる。	2に加え、 <u>信頼できる情報源</u> から情報を収集できている。	2に加え、 <u>信頼できる情報源</u> から情報を収集できている。	インターネット、書籍、新聞等から正確な情報を収集できている。	インターネット、書籍、新聞等から正確な情報を収集できている。	インターネット、書籍、新聞等から正確な情報を収集できている。
<b>分析力</b> 論理的に思考したり、データの特徴を的確にとらえることができる力	3に加え、集めた情報を様々な観点から比較検討している。	集めた情報を <u>適切に読み取</u> れている。	集めた情報を <u>適切に読み取</u> れている。	集めた情報結果を掲載しているが、 <u>適切に読み取</u> れていない。	集めた情報について説明がない。(情報を羅列しているだけ)	
	3に加え、独創的で魅力ある提案ができている。	2に加え、 <u>提案の根拠</u> が述べられている。	2に加え、 <u>提案の根拠</u> が述べられている。	テーマと提案の整合性がある。	テーマと提案に整合性がない。	
<b>共感力</b> 自分の意見を主張するだけでなく他者の意見を認めることができる力	3に加え、自分と異なる意見に対して理解を示し、自分の意見も主張できている。	2に加え、他者の意見や質問に対して <u>適切に答える</u> ことができている。	2に加え、他者の意見や質問に対して <u>適切に答える</u> ことができている。	他者の意見や質問を理解することができている。	他者の意見や質問を理解することができていない。	
	<b>表現実行力</b> 物事を他者に伝えた り、実際に行動につ ながることができる力	3に加え、ジェスチャー等を用いて聴衆を飽かさせない工夫がある。	<u>声量や話すスピードが適切</u> で、 <u>堂々と聴衆を見ながら</u> 発表している。	<u>声量や話すスピードが適切</u> で、 <u>堂々と聴衆を見ながら</u> 発表している。	声量や話すスピードは適切だが、 <u>ときどきメモを見ながら</u> 発表している。	声量が足りない。または話すスピードが適切でない。
<b>スライド</b> 文字や図・グラフが <u>見やすく</u> 、 <u>アニメーションも効果的に使</u> 用できている。		3に加え、言葉とスライド展開（アニメーション）のタイミングが合っている。	文字や図・グラフが <u>見やすく</u> 、 <u>アニメーションも効果的に使</u> 用できている。	文字や図・グラフは <u>見やすい</u> が、 <u>アニメーションを効果的に使</u> 用できていない。	文字や図・グラフが <u>見えにく</u> い。 または引用元の記載がない。	
<b>採用したい度</b>	ぜひ採用したい。	一部採用したい。	参考にした。	採用できるところはない。 (あまり参考にならない)		
<b>コメント</b> (良かった点・改善すべき点)						<b>総点</b>

当てはまるものの点数を記入して下さい。

<p>鵬DP評価表</p>		<p>評価基準</p>				<p>点数 (数字のみ)</p>
		<p>S(応用)</p>	<p>A(つながり)</p>	<p>B(考え)</p>	<p>C(入口)</p>	
<p>鵬DPとその定義</p>	<p>点数</p>	<p>4点</p>	<p>3点</p>	<p>2点</p>	<p>1点</p>	
<p><b>再認識力</b> ・「既習の事項」について、振り返ったり、再現実したりできる力 ・「既習の事項」について新たな価値を見いだすことができる力</p>	<p>物事について考え、振り返る中で気づいた視点から、これまでになかったことを計画し、それを提案ができる。</p>	<p>考えたり、振り返ったりしたことと、これまで得た知識や技能とをつなげて、新たな視点に気づくことができる。</p>	<p>考えたり、振り返ったりしたことをもとに次の計画をすることができる。</p>	<p>物事について考えたり、振り返ったりすることができる。</p>		
<p><b>情報収集力</b> ・「未習の事項」について、調べるための手段や対象を適切に設定できる力</p>	<p>様々な調査から収集した情報から、真偽を確かめたり、必要か不要かなどの分類をすることができ。</p>	<p>インタビューやアンケートなどの調査を行い、書籍やインターネットから得た情報の裏付けを取ることができる。</p>	<p>書籍やインターネットから情報収集を行うことができる。</p>	<p>インターネットを用いて情報収集をすることができる。</p>		
<p><b>問題発見力</b> ・「既習の事項」から、核心となる課題を的確にとらえる力 ・「既習の事項」から、発展的な課題を見いだす力</p>	<p>設定した課題を解決するため の解決案を提案できる。</p>	<p>類似の問題解決策を参考に、現在の問題解決のための課題設定を行うことができる。</p>	<p>問題の原因が何かを述べるこ とができる。</p>	<p>メディアから報道される問題を 理解できる。</p>		
<p><b>分析力</b> ・「既習の事項」をもとに、論理的に思考できる力 ・データ等から、その特徴を的確にとらえる ことができる力</p>	<p>図表や分析結果から論理的に 思考し、他者に説明できる。</p>	<p>書籍等から、適切な図表や分 析方法を自ら学ぶことができる。 る。</p>	<p>図表や分析方法にもとづいて、 筋道を立てて考えることができ る。</p>	<p>データを図表に加工したり、分 析方法を用いて分析できる。</p>		
<p><b>共感力</b> ・教材や他者の発表などに対して主体的に関わり、理解を深められる力 ・自分と異なる考えを持っているとしても、その良さを見いだして他者を認めることができる力</p>	<p>自分の意見と他者の意見を総 合して、これまでの自分の発想 ではできなかった提案ができ る。</p>	<p>自分意見と他者の意見の類似 点や相違点について分けて考 えることができる。</p>	<p>他者の意見だけでなく、その 背景にある気持ちや感情を理 解することができる。</p>	<p>他者の意見を理解することが できる。</p>		
<p><b>表現実行力</b> ・学習事項に対して、自分が理解した内容を他者に伝えられる力</p>	<p>スライドやポスター等の発表や 論文、その他、その時最も適切 な方法を選択し、他者を説得 するための提案ができる。</p>	<p>物事を他者に伝えた後、質問 や意見に対し、論理的に説明 することができる。</p>	<p>物事を正確に他者に伝えるた めに必要な手段を考えること ができる。</p>	<p>対話を通して物事を他者に述 べることができる。</p>		

添付資料④ アンケート結果 研究開発Ⅰ、Ⅱ 郷土に関する意識調査

【実施時期】

H 3 1 年度入学生 1 回目：H 3 1 4 月（入学後） 2 回目：R 1 8 月（地域学終了後） 3 回目：R 2 1 月（トリコロン終了後） 4 回目：R 2 4 月（進級後） 5 回目：R 2 1 2 月（課題研究後）

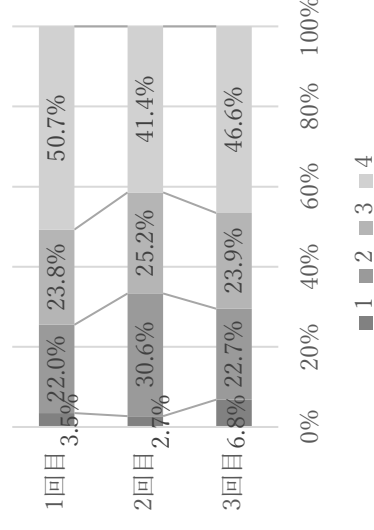
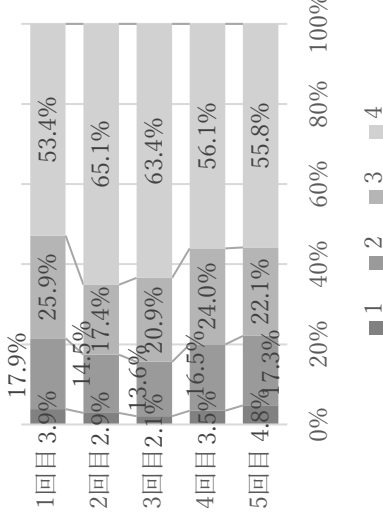
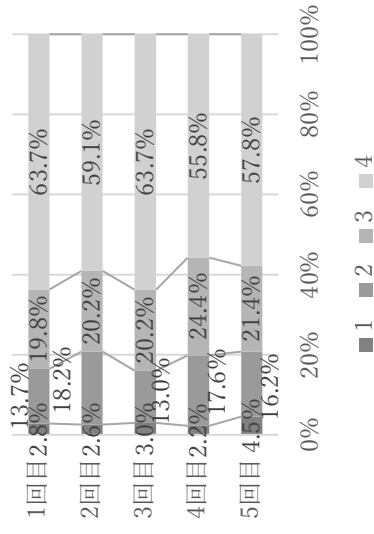
R 2 年度入学生 1 回目：R 2 4 月（入学後） 2 回目：R 2 8 月（地域学終了後） 3 回目：R 3 1 月（トリコロン終了後） 4 回目：R 3 4 月（進級後） 5 回目：R 3 1 2 月（課題研究後）

R 3 年度入学生 1 回目：R 3 4 月（入学後） 2 回目：R 3 9 月（地域学終了後） 3 回目：R 4 1 月（トリコロン終了後）

H 3 1 年度 入学生	R 2 年度 入学生	R 3 年度 入学生																																																																																
設問 1 郷土が誇れる観光地を知っている。	設問 1 知らない ② 1 つは知っている ② 2 つ以上知っている ④ 3 つ以上知っている	設問 1 知らない ② 1 つは知っている ② 2 つ以上知っている ④ 3 つ以上知っている																																																																																
<table border="1"> <caption>H 3 1 年度 入学生 設問 1</caption> <thead> <tr> <th>回目</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>6.1%</td> <td>22.6%</td> <td>21.5%</td> <td>49.9%</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>5.2%</td> <td>19.6%</td> <td>21.3%</td> <td>53.9%</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>5.7%</td> <td>19.0%</td> <td>16.3%</td> <td>58.9%</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>5.3%</td> <td>19.6%</td> <td>28.6%</td> <td>46.6%</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>8.0%</td> <td>17.5%</td> <td>27.7%</td> <td>46.8%</td> </tr> </tbody> </table>	回目	1	2	3	4	1回目	6.1%	22.6%	21.5%	49.9%	2回目	5.2%	19.6%	21.3%	53.9%	3回目	5.7%	19.0%	16.3%	58.9%	4回目	5.3%	19.6%	28.6%	46.6%	5回目	8.0%	17.5%	27.7%	46.8%	<table border="1"> <caption>R 2 年度 入学生 設問 1</caption> <thead> <tr> <th>回目</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>7.2%</td> <td>21.5%</td> <td>24.0%</td> <td>47.4%</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>4.9%</td> <td>21.2%</td> <td>21.7%</td> <td>52.2%</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>5.3%</td> <td>16.2%</td> <td>23.6%</td> <td>54.9%</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>4.9%</td> <td>18.0%</td> <td>28.7%</td> <td>48.4%</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>6.2%</td> <td>20.4%</td> <td>24.9%</td> <td>48.4%</td> </tr> </tbody> </table>	回目	1	2	3	4	1回目	7.2%	21.5%	24.0%	47.4%	2回目	4.9%	21.2%	21.7%	52.2%	3回目	5.3%	16.2%	23.6%	54.9%	4回目	4.9%	18.0%	28.7%	48.4%	5回目	6.2%	20.4%	24.9%	48.4%	<table border="1"> <caption>R 3 年度 入学生 設問 1</caption> <thead> <tr> <th>回目</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>7.5%</td> <td>29.5%</td> <td>19.9%</td> <td>43.1%</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>9.0%</td> <td>34.8%</td> <td>21.9%</td> <td>34.2%</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>11.3%</td> <td>28.9%</td> <td>21.1%</td> <td>38.7%</td> </tr> </tbody> </table>	回目	1	2	3	4	1回目	7.5%	29.5%	19.9%	43.1%	2回目	9.0%	34.8%	21.9%	34.2%	3回目	11.3%	28.9%	21.1%	38.7%
回目	1	2	3	4																																																																														
1回目	6.1%	22.6%	21.5%	49.9%																																																																														
2回目	5.2%	19.6%	21.3%	53.9%																																																																														
3回目	5.7%	19.0%	16.3%	58.9%																																																																														
4回目	5.3%	19.6%	28.6%	46.6%																																																																														
5回目	8.0%	17.5%	27.7%	46.8%																																																																														
回目	1	2	3	4																																																																														
1回目	7.2%	21.5%	24.0%	47.4%																																																																														
2回目	4.9%	21.2%	21.7%	52.2%																																																																														
3回目	5.3%	16.2%	23.6%	54.9%																																																																														
4回目	4.9%	18.0%	28.7%	48.4%																																																																														
5回目	6.2%	20.4%	24.9%	48.4%																																																																														
回目	1	2	3	4																																																																														
1回目	7.5%	29.5%	19.9%	43.1%																																																																														
2回目	9.0%	34.8%	21.9%	34.2%																																																																														
3回目	11.3%	28.9%	21.1%	38.7%																																																																														
設問 2 設問 1 で②～④と答えた人の中でその観光地の特色を具体的に説明できる。	設問 2 ①できない ②1つはできる ③2つはできる ④3つ以上できる	設問 2 ①できない ②1つはできる ③2つはできる ④3つ以上できる																																																																																
<table border="1"> <caption>H 3 1 年度 入学生 設問 2</caption> <thead> <tr> <th>回目</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>24.6%</td> <td>38.7%</td> <td>18.1%</td> <td>18.6%</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>19.9%</td> <td>42.2%</td> <td>20.8%</td> <td>17.0%</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>12.9%</td> <td>41.2%</td> <td>26.2%</td> <td>19.7%</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>15.1%</td> <td>40.7%</td> <td>26.9%</td> <td>17.3%</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>16.6%</td> <td>41.9%</td> <td>20.9%</td> <td>20.6%</td> </tr> </tbody> </table>	回目	1	2	3	4	1回目	24.6%	38.7%	18.1%	18.6%	2回目	19.9%	42.2%	20.8%	17.0%	3回目	12.9%	41.2%	26.2%	19.7%	4回目	15.1%	40.7%	26.9%	17.3%	5回目	16.6%	41.9%	20.9%	20.6%	<table border="1"> <caption>R 2 年度 入学生 設問 2</caption> <thead> <tr> <th>回目</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>18.5%</td> <td>41.9%</td> <td>19.0%</td> <td>17.1%</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>20.1%</td> <td>40.1%</td> <td>22.4%</td> <td>17.4%</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>16.2%</td> <td>41.9%</td> <td>22.2%</td> <td>19.8%</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>16.0%</td> <td>40.2%</td> <td>26.0%</td> <td>17.8%</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>17.7%</td> <td>41.0%</td> <td>19.1%</td> <td>22.2%</td> </tr> </tbody> </table>	回目	1	2	3	4	1回目	18.5%	41.9%	19.0%	17.1%	2回目	20.1%	40.1%	22.4%	17.4%	3回目	16.2%	41.9%	22.2%	19.8%	4回目	16.0%	40.2%	26.0%	17.8%	5回目	17.7%	41.0%	19.1%	22.2%	<table border="1"> <caption>R 3 年度 入学生 設問 2</caption> <thead> <tr> <th>回目</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>22.0%</td> <td>43.7%</td> <td>17.8%</td> <td>16.6%</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>26.6%</td> <td>43.8%</td> <td>19.1%</td> <td>10.6%</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>24.5%</td> <td>45.9%</td> <td>16.0%</td> <td>13.6%</td> </tr> </tbody> </table>	回目	1	2	3	4	1回目	22.0%	43.7%	17.8%	16.6%	2回目	26.6%	43.8%	19.1%	10.6%	3回目	24.5%	45.9%	16.0%	13.6%
回目	1	2	3	4																																																																														
1回目	24.6%	38.7%	18.1%	18.6%																																																																														
2回目	19.9%	42.2%	20.8%	17.0%																																																																														
3回目	12.9%	41.2%	26.2%	19.7%																																																																														
4回目	15.1%	40.7%	26.9%	17.3%																																																																														
5回目	16.6%	41.9%	20.9%	20.6%																																																																														
回目	1	2	3	4																																																																														
1回目	18.5%	41.9%	19.0%	17.1%																																																																														
2回目	20.1%	40.1%	22.4%	17.4%																																																																														
3回目	16.2%	41.9%	22.2%	19.8%																																																																														
4回目	16.0%	40.2%	26.0%	17.8%																																																																														
5回目	17.7%	41.0%	19.1%	22.2%																																																																														
回目	1	2	3	4																																																																														
1回目	22.0%	43.7%	17.8%	16.6%																																																																														
2回目	26.6%	43.8%	19.1%	10.6%																																																																														
3回目	24.5%	45.9%	16.0%	13.6%																																																																														

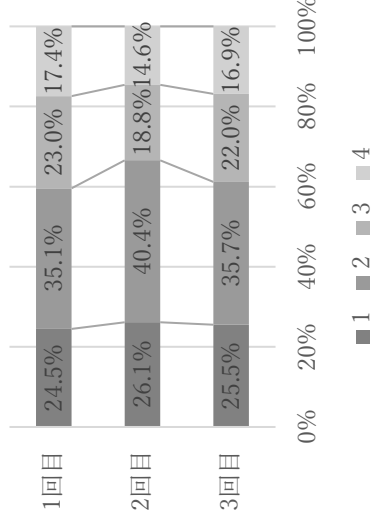
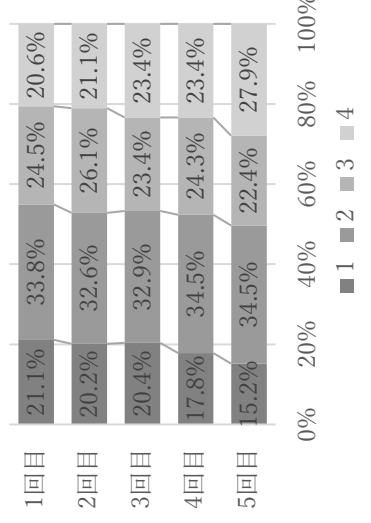
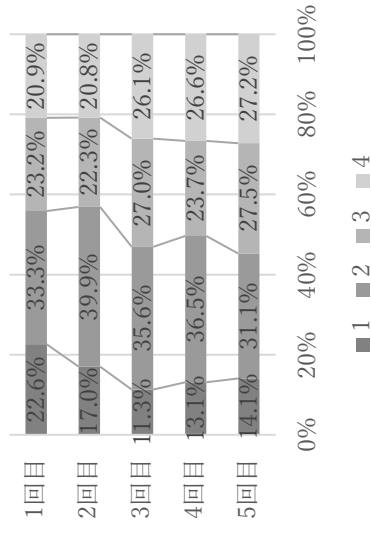
設問3 郷土の特産物を知っている。

①知らない ②1つは知っている ③2つ以上知っている ④3つ以上知っている



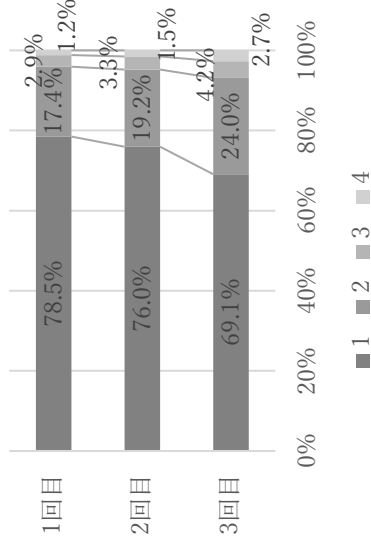
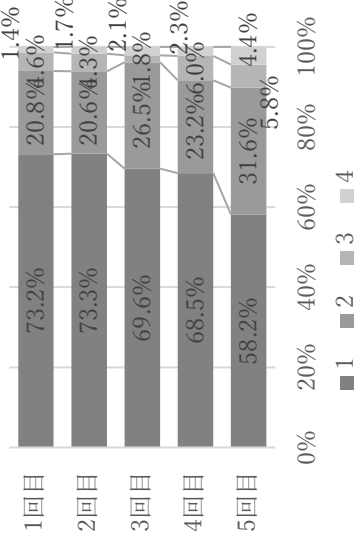
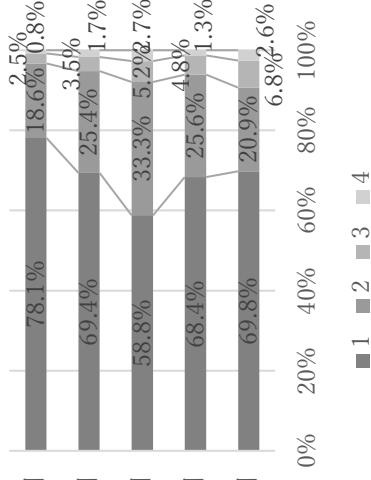
設問4 設問3で②～④と答えた人の中でその特産物は何のようところがアピールポイントか具体的に説明できる。

①できない ②1つはできる ③2つできる ④3つ以上できる



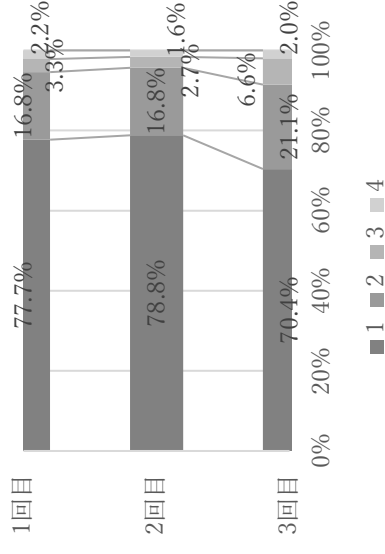
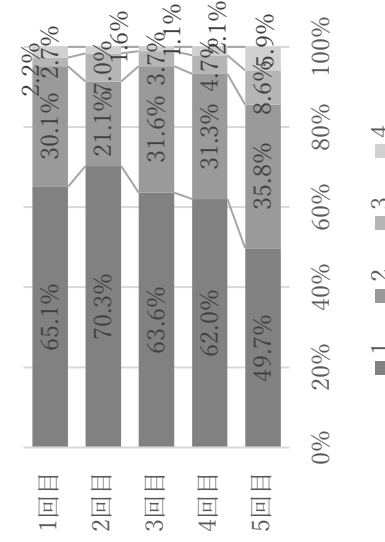
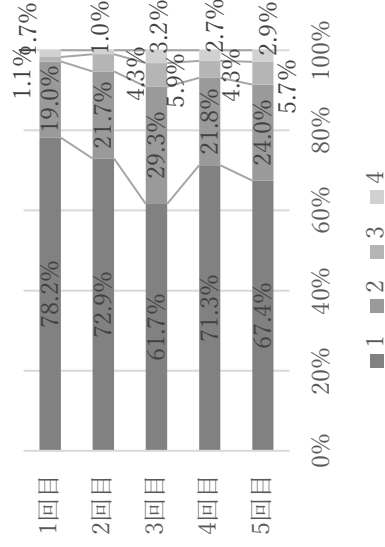
設問 5 郷土の企業で興味ある企業がある。

① 全くない ② 1社ある ③ 2社ある ④ 3社以上ある



設問 6 設問 5 で②～④と答えた人の中でその企業の特徴を具体的に説明できる。

① できない ② 1つはできる ③ 2つできる ④ 3つ以上できる





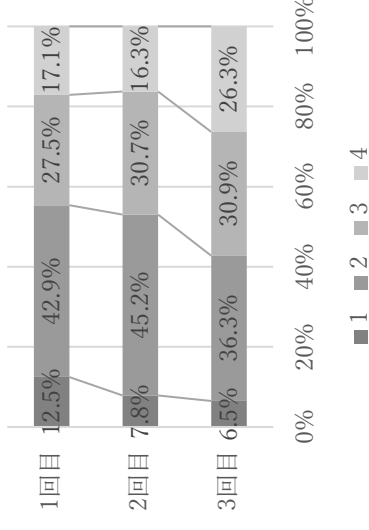
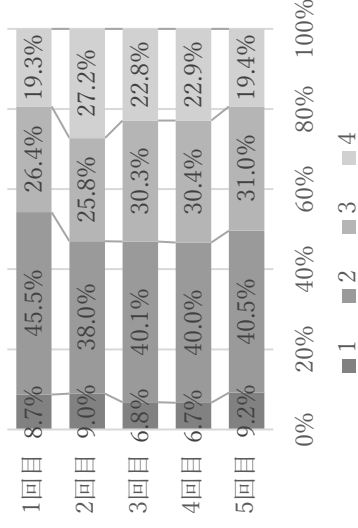
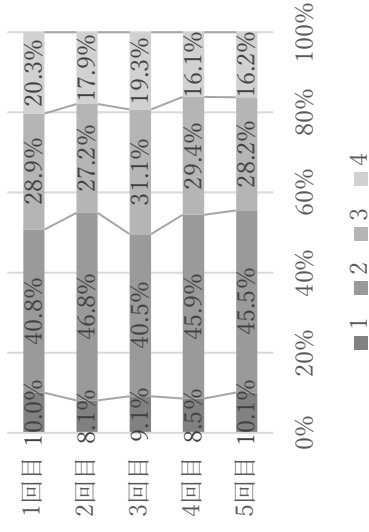
設問 7 郷土の偉人を知っている。

①知らない

②1つは知っている

③2つ以上知っている

④3つ以上知っている



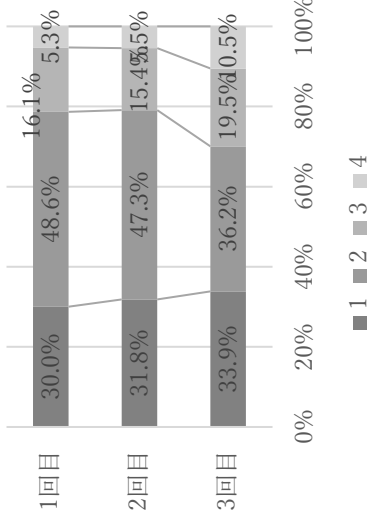
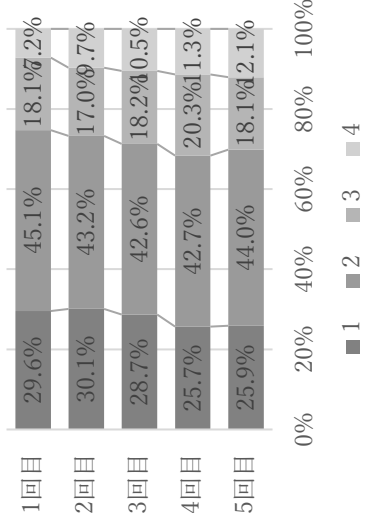
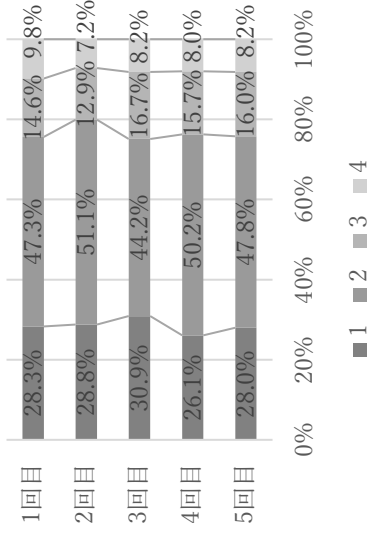
設問 8 設問 7 で②～④と答えた人の中でその偉人の中でのその偉人の行ったことを具体的に説明できる。

①できない

②1つはできる

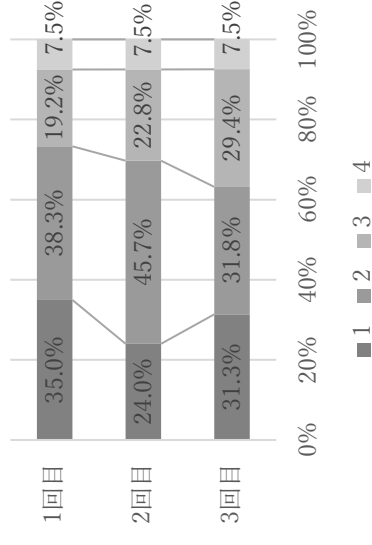
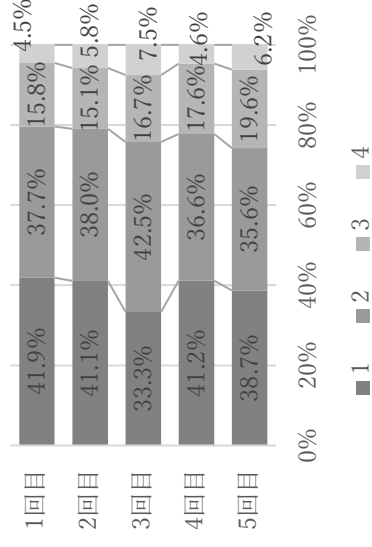
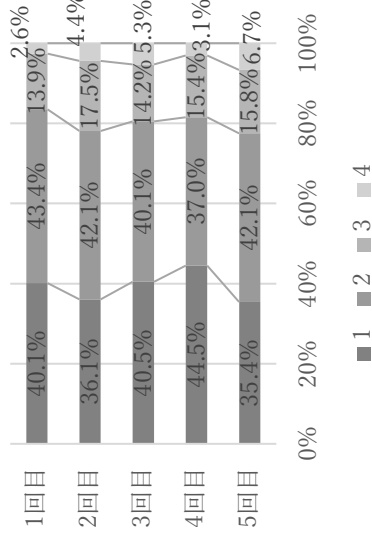
③2つできる

④3つ以上できる

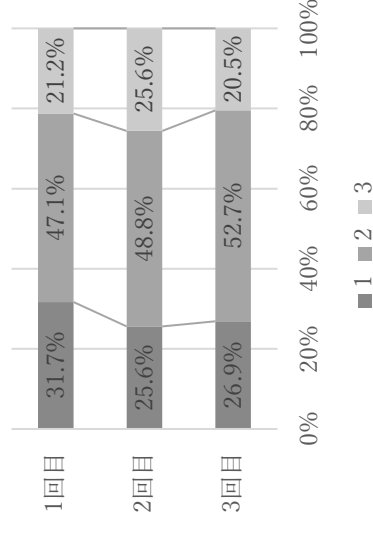
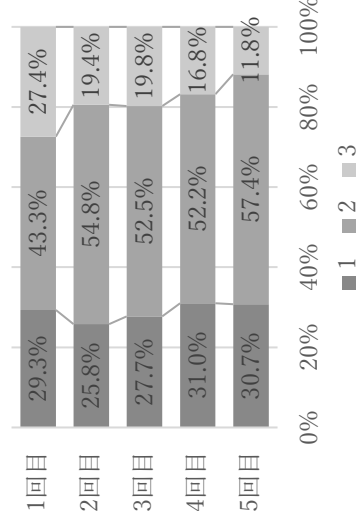
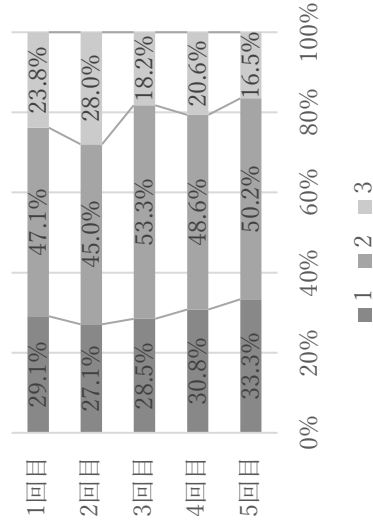


設問9 設問1, 3, 5, 7で「できない」と答えた人に質問です。知る機会があれば知りたいですか

①知りたい ②どちらからかといえは知りたい ③あまり興味はない ④全く興味はない



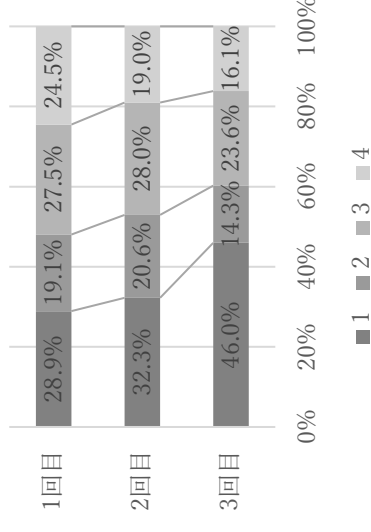
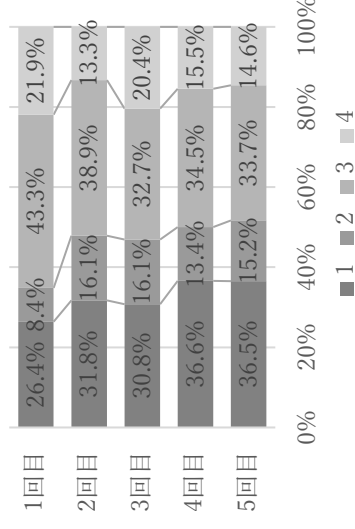
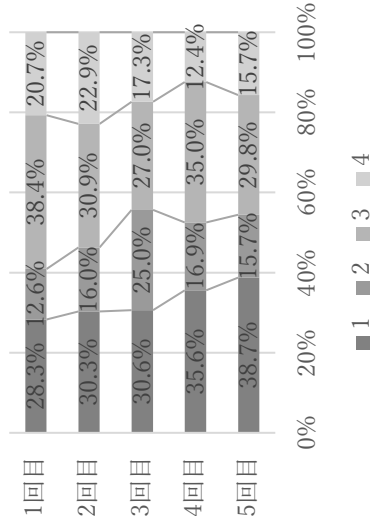
設問10 進学先は県内、県外どちらを希望しますか  
①県内 ②県外 ③分からない



設問 11 設問 10 において県外を希望した理由を次の項目から 1 つ選んでください。

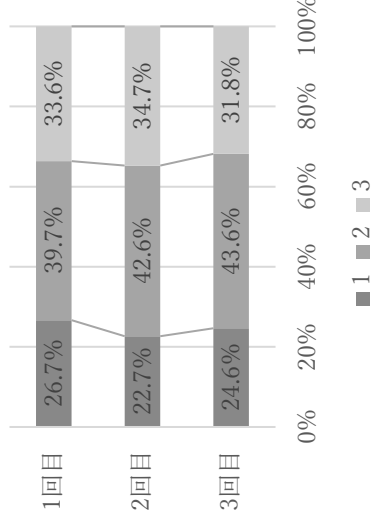
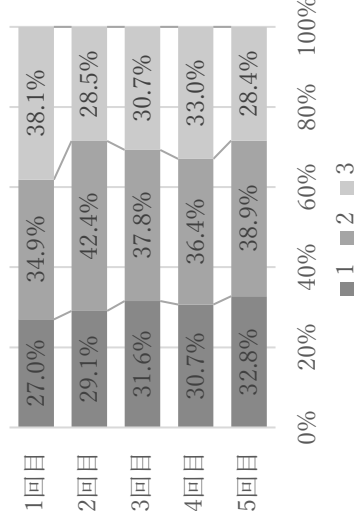
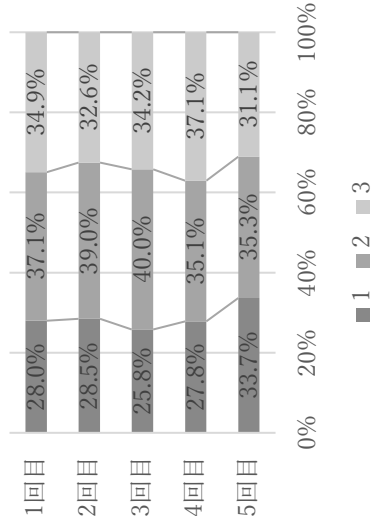
①進学したい学部が県内にない ②県内の大学専門学校等に魅力を感じない ③ 1 度は県外に出てみたい

④その他



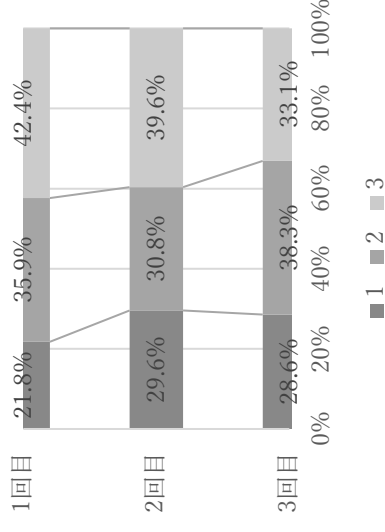
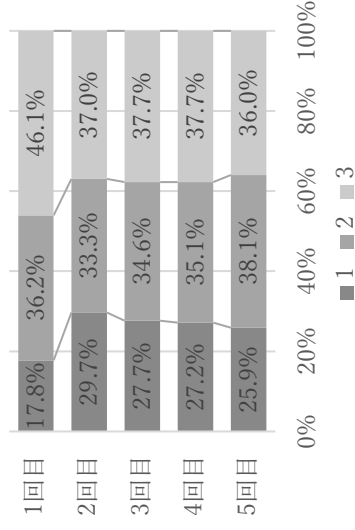
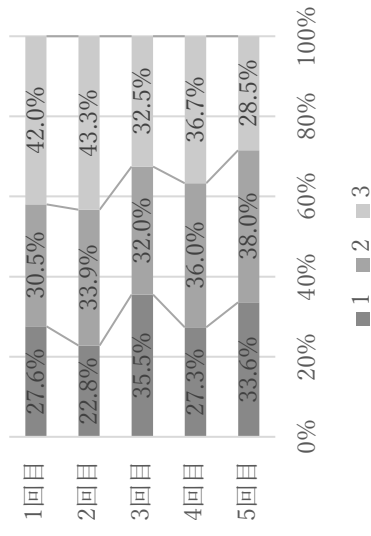
設問 12 将来の就職先について県内、県外のどちらを希望しますか

①県内 ②県外 ③分からない

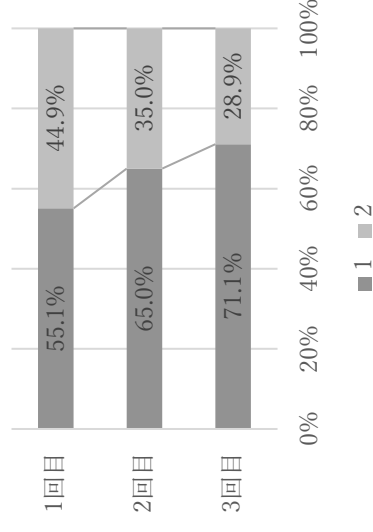
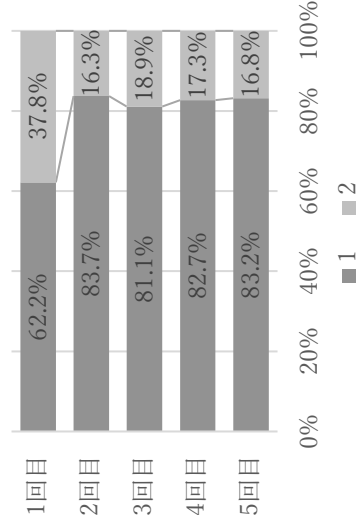
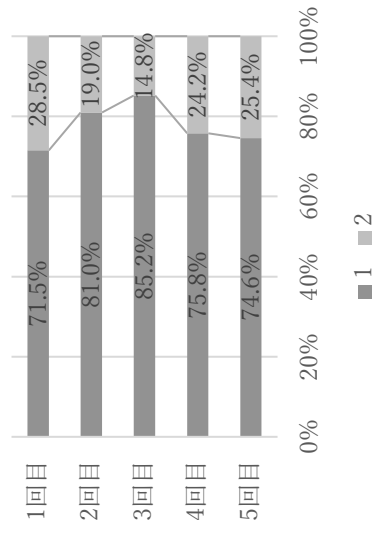


設問 13 設問 12 において県外と希望した理由を次の項目から 1 つ選んでください

①魅力ある企業がある ②県内に住みたいと思わない ③その他

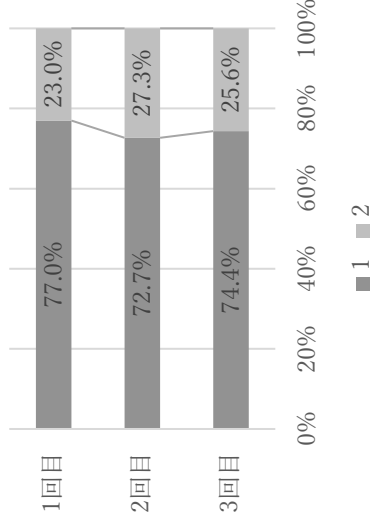
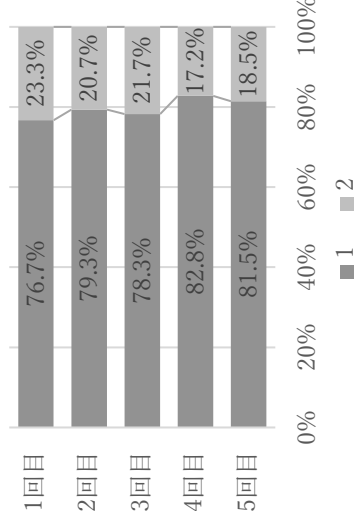
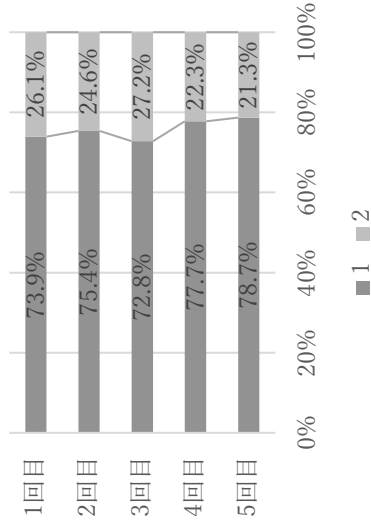


設問 14 郷土が抱える課題について何か 1 つでもあげることができですか  
①できる ②できない



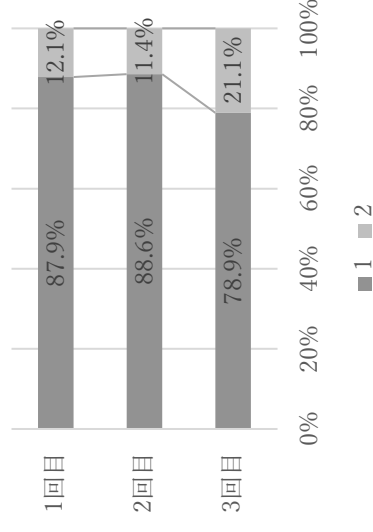
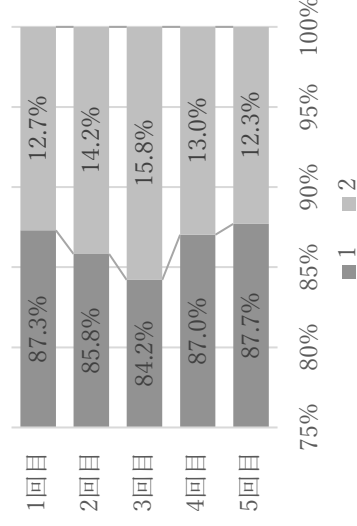
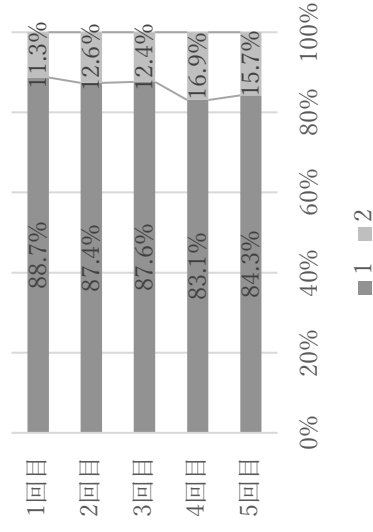
設問 15 設問 14 で「できる」と答えた人に質問です。その課題の改善に自分が貢献していきたい（いける）と思いますか。

①思う ②思わない



設問 16 設問 14 で「できない」と答えた人に質問です。課題を知ることができればその課題の改善に自分が貢献していきたい（いける）と思いますか。

①思う ②思わない





添付資料⑤ アンケート結果 研究開発 I, II 自己分析アンケート

【実施時期】

H31年度入学生 1回目：H31 4月(入学後) 2回目：R1 8月(地域学終了後) 3回目：R2 1月(トリコン終了後) 4回目：R2 4月(進級後) 5回目：R2 12月(課題研究後)

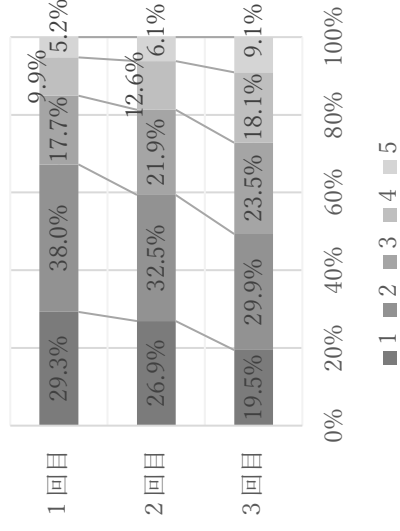
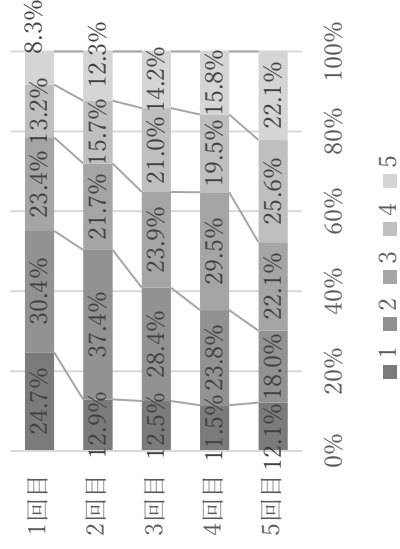
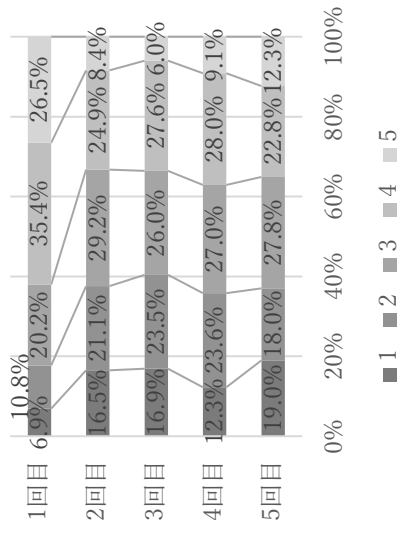
R2年度入学生 1回目：R2 4月(入学後) 2回目：R2 8月(地域学終了後) 3回目：R3 1月(トリコン終了後) 4回目：R3 4月(進級後) 5回目：R3 12月(課題研究後)

R3年度入学生 1回目：R3 4月(入学後) 2回目：R3 9月(地域学終了後) 3回目：R4 1月(トリコン終了後)

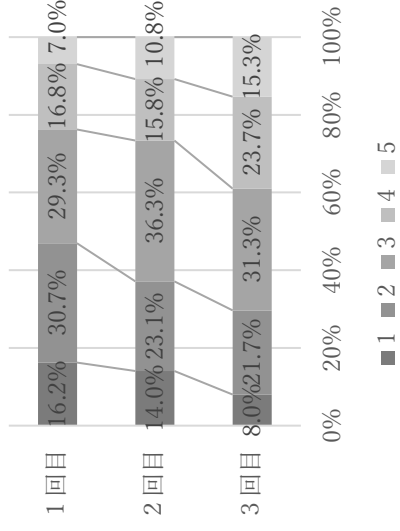
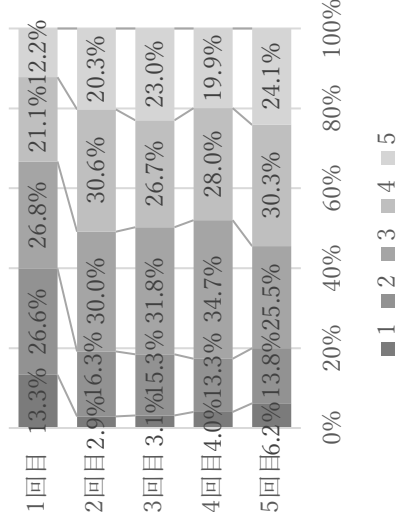
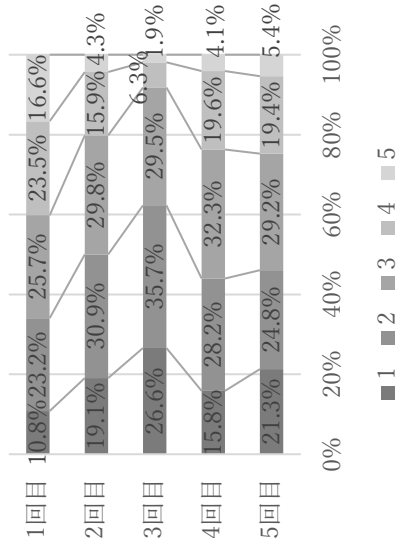
5 できる 4 まあまあできる 3 ややできる 2 あまりできない 1 できない

	H31年度 入学	R2年度 入学	R3年度 入学
設問1 宮崎市の地域資源について具体的に説明できる。	<p>1回目 2.2% 15.5% 38.7% 34.0%                  2回目 5.8% 20.2% 27.5% 35.3% 11.3%                  3回目 10.0% 32.3% 27.3% 24.5% 6.0%                  4回目 5.8% 23.8% 28.7% 29.0% 12.8%                  5回目 12.0% 21.9% 23.5% 29.3% 13.3%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5</p>	<p>1回目 26.8% 40.5% 20.8% 1.9%                  2回目 4.3% 36.9% 27.7% 16.9% 4.3%                  3回目 3.1% 27.6% 31.0% 21.6% 6.8%                  4回目 12.0% 34.4% 25.1% 20.7% 7.9%                  5回目 11.3% 25.4% 23.7% 25.4% 14.1%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5</p>	<p>1回目 34.5% 42.9% 5.2%                  2回目 23.9% 43.1% 10.8%                  3回目 15.2% 40.1% 23.5% 17.9% 3.3%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5</p>
設問2 宮崎市の企業の興味ある取組を具体的に説明できる。	<p>1回目 1.4% 12.4% 40.1% 42.8%                  2回目 4.6% 14.7% 1.8% 40.8% 18.1%                  3回目 8.0% 15.7% 32.9% 33.2% 10.2%                  4回目 3.1% 11.6% 21.1% 40.3% 23.9%                  5回目 8.9% 18.0% 37.7% 26.9%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5</p>	<p>1回目 34.6% 44.1% 14.1% 2.2%                  2回目 19.7% 43.5% 21.3% 10.4% 5.1%                  3回目 19.5% 35.9% 24.0% 15.3% 5.3%                  4回目 23.3% 37.8% 20.5% 13.3% 5.2%                  5回目 21.6% 33.0% 20.3% 13.7% 11.3%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5</p>	<p>1回目 43.1% 40.8% 1.1% 1.5%                  2回目 40.1% 38.1% 4.2% 2.4%                  3回目 30.2% 39.7% 17.6% 3.4%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5</p>

設問 3 宮崎市内の大学の特色を1つは具体的に説明できる。

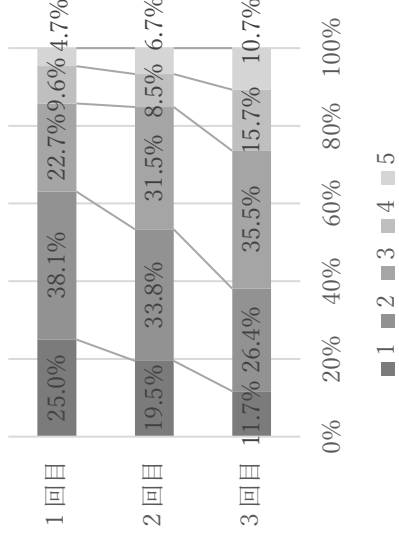
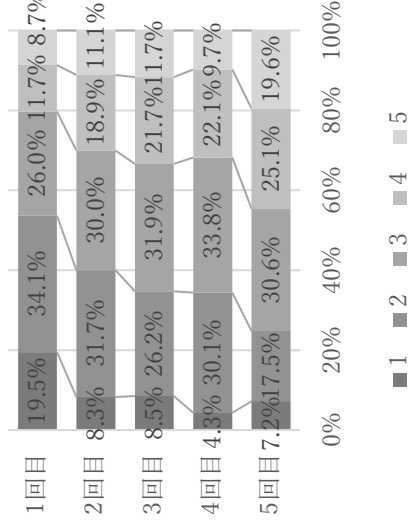
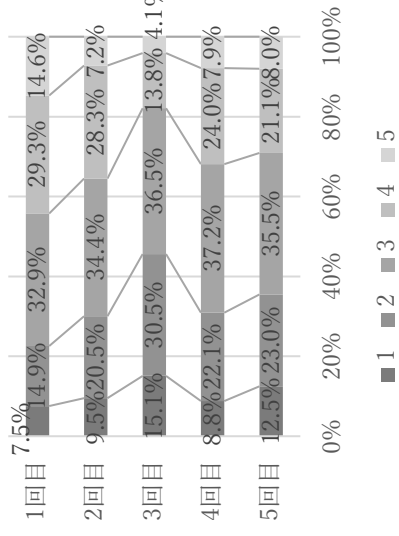


設問 4 宮崎市の解決すべき課題を具体的に説明できる。

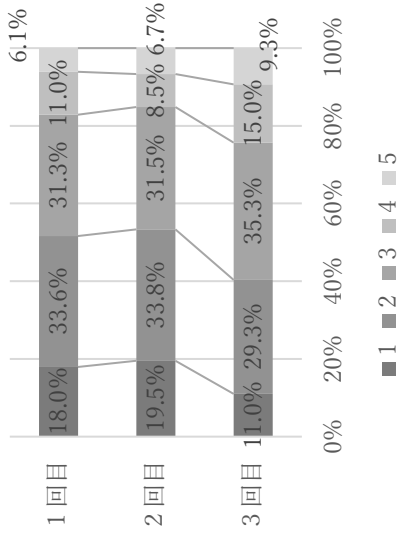
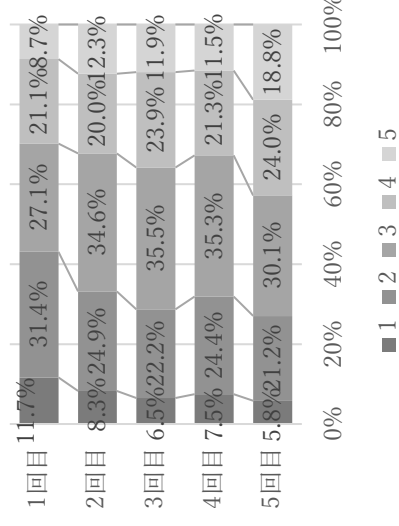
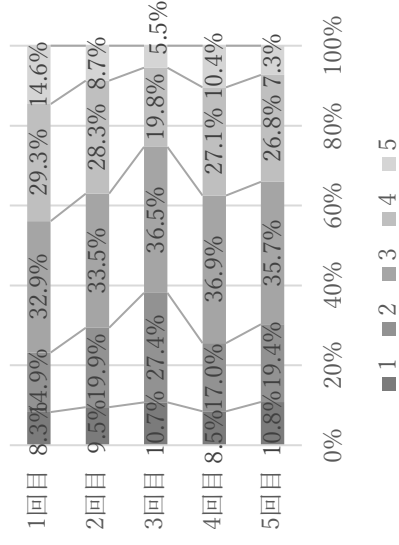




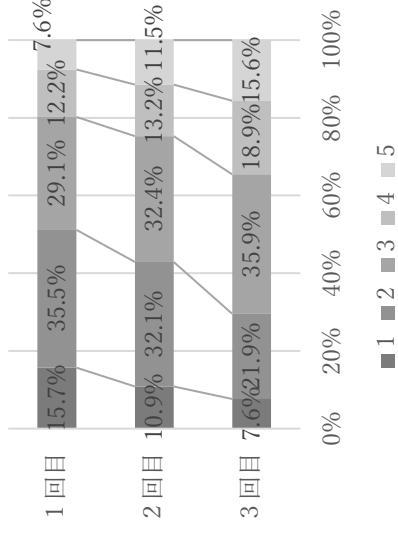
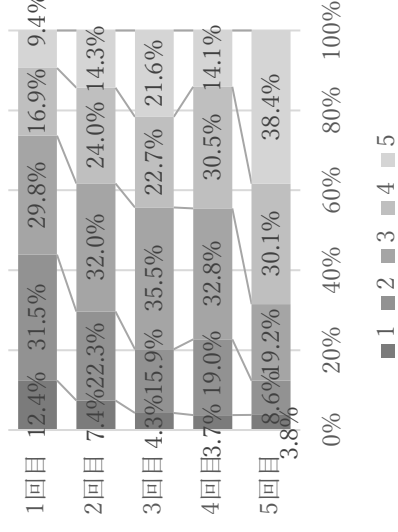
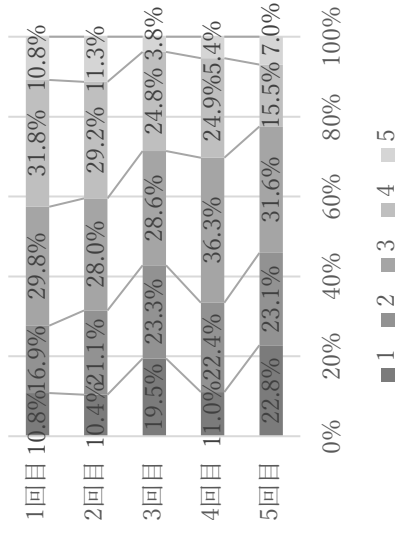
設問5 宮崎市の課題解決について提案できる。



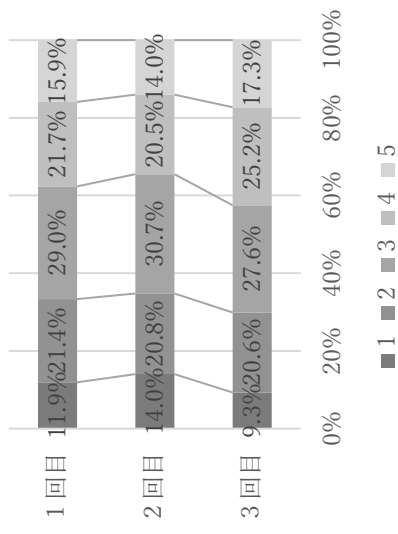
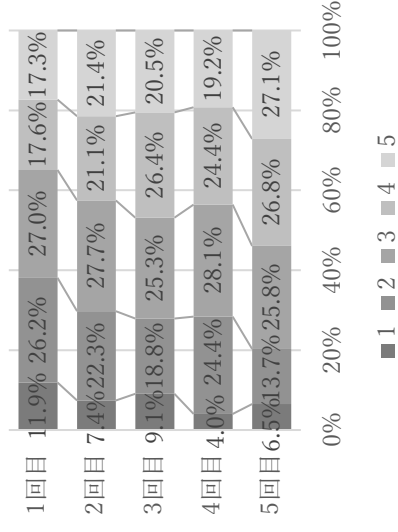
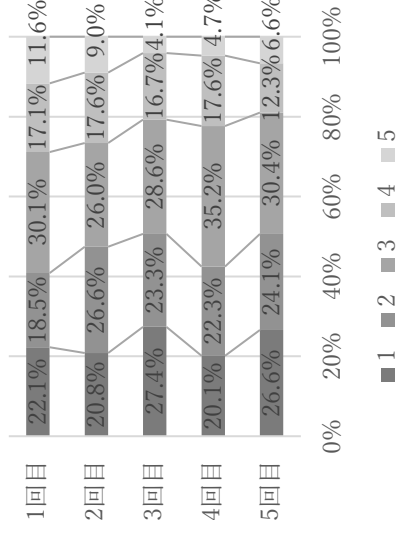
設問6 地域との関わりで自己のアイデンティティ（自分とは何か）を再認識できる。



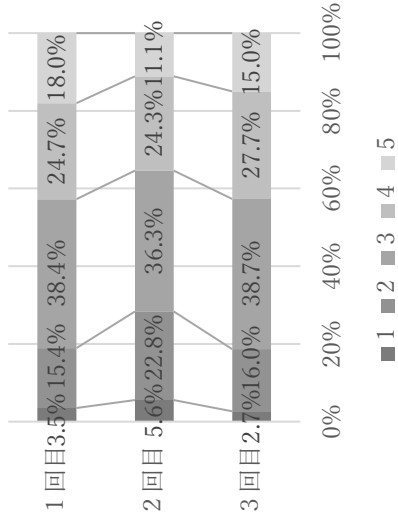
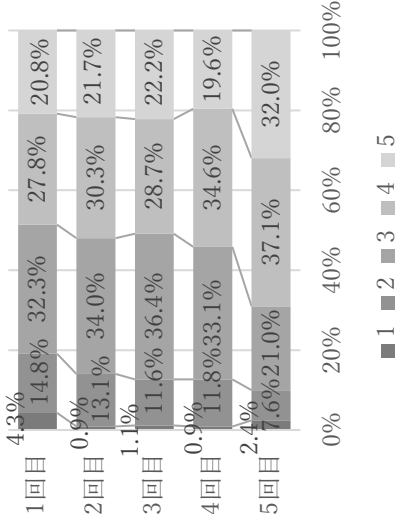
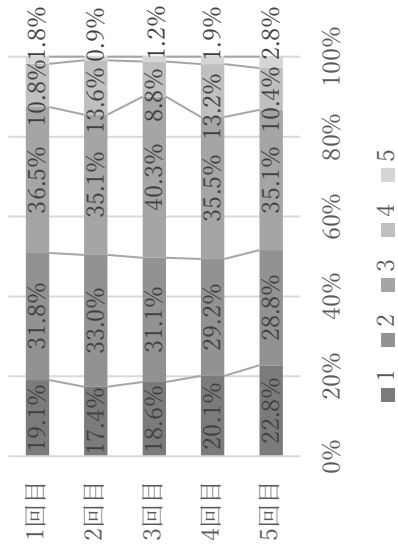
設問7 インターネットだけに頼らず、アンケートなどの独自の収集方法を知っており、効果的な活用ができる。



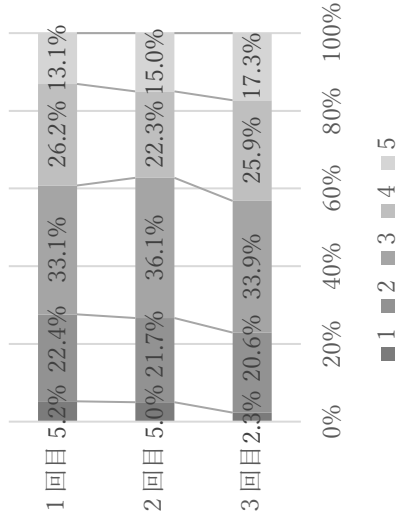
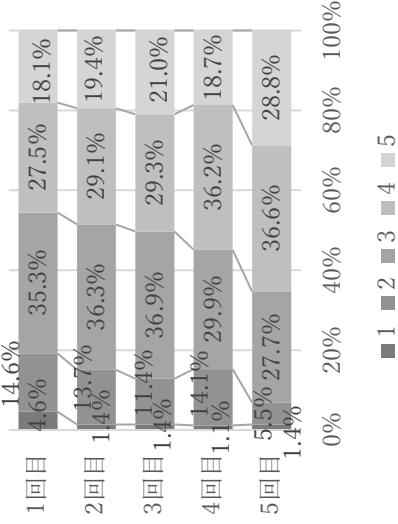
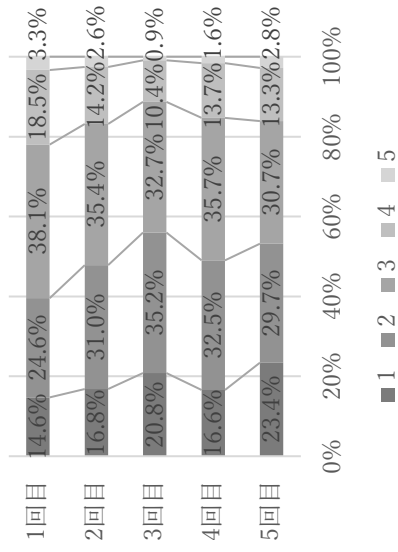
設問8 「蔵書検索」などを利用し、図書館から必要な書籍を選ぶことができる。



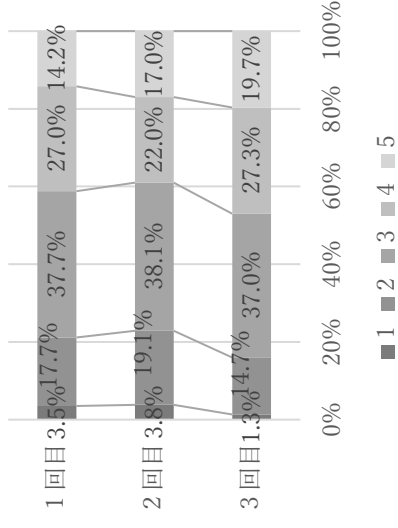
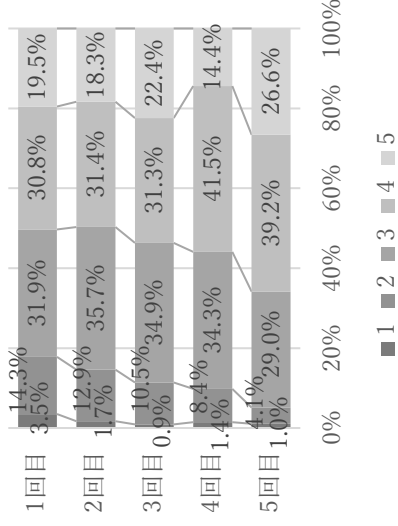
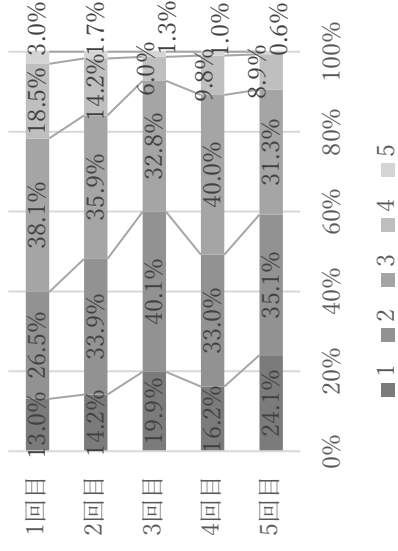
設問9 得られた情報を目的達成に活用するだけでなく、自分の進路実現にも活かすことができる。



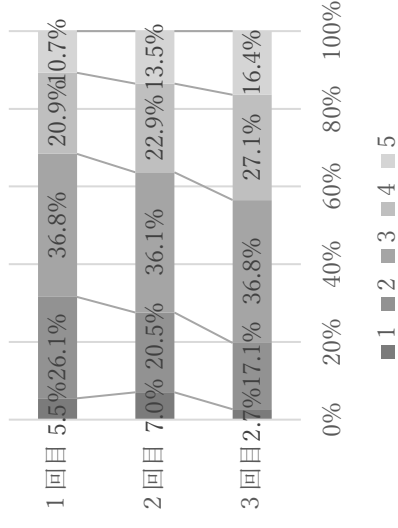
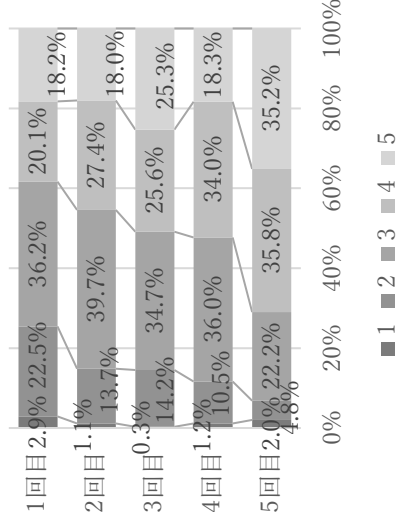
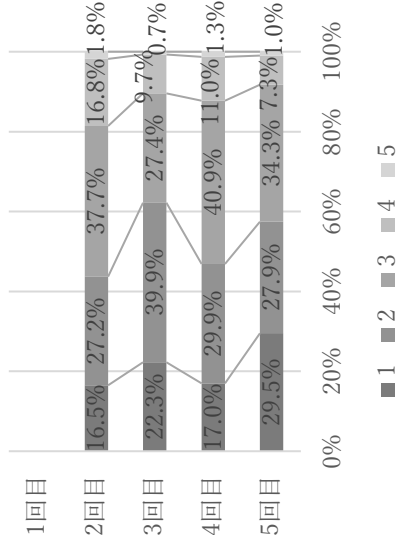
設問10 多くの視野で一つの事象について思考できる。



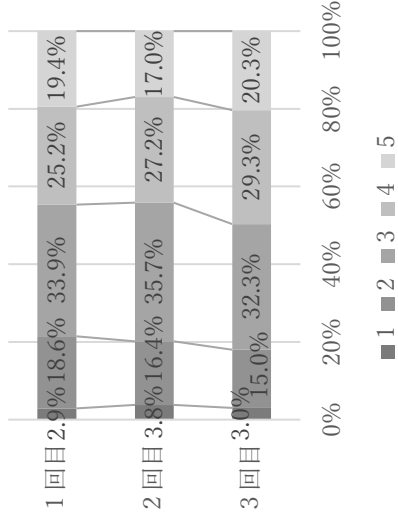
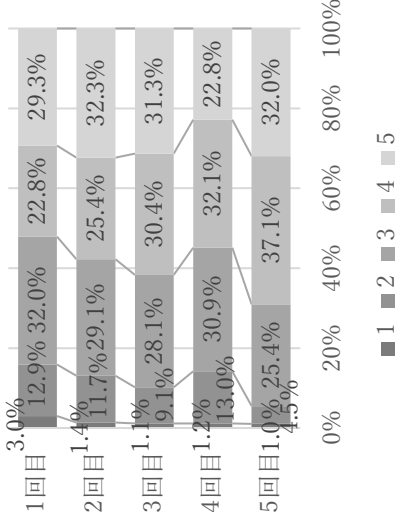
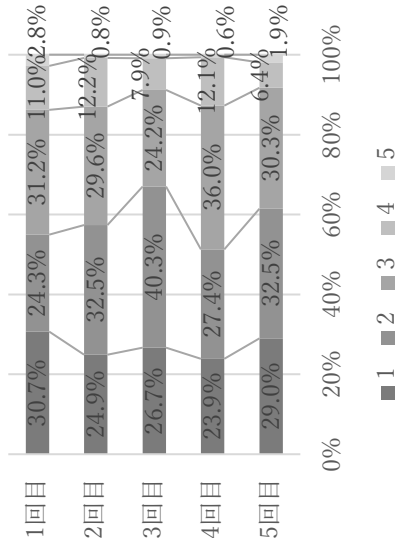
設問 1 1 目の前の問題について掘り下げて思考できる。



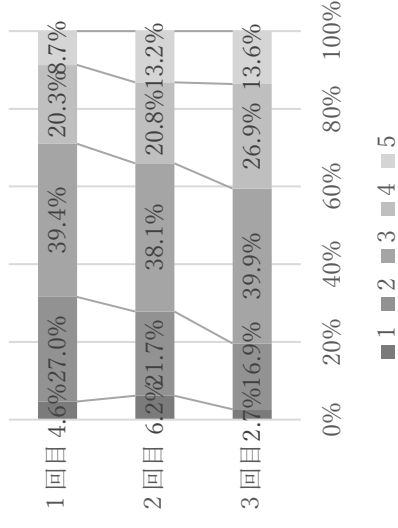
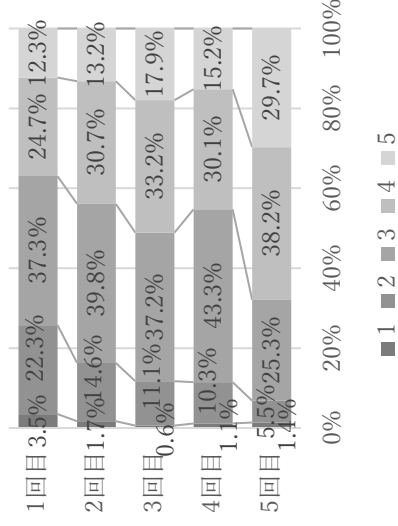
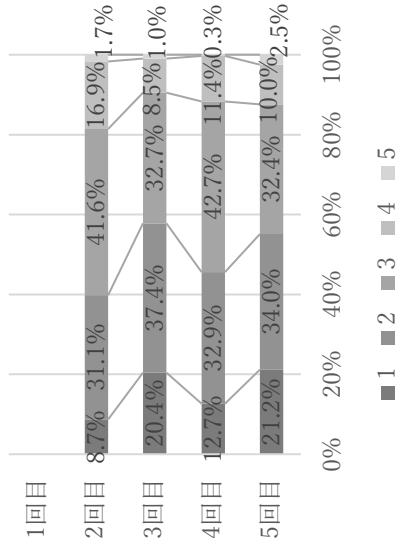
設問 1 2 課題研究のためのテーマを設定することができる。



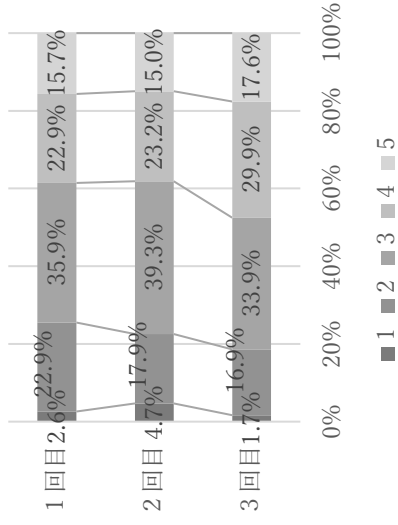
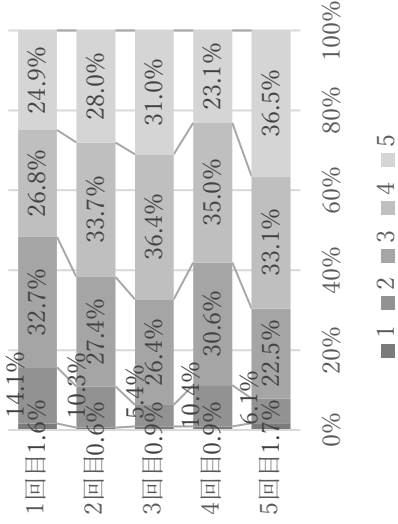
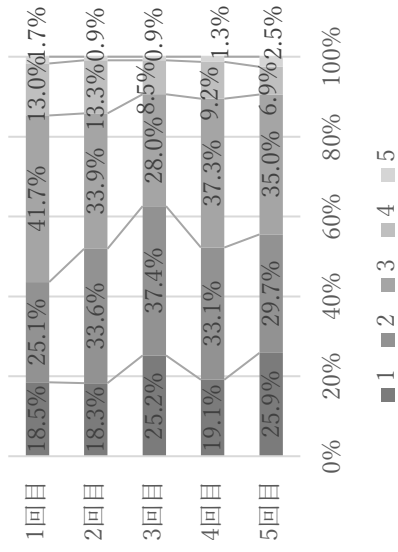
設問 1 3 自分の将来設計において解決しておかなければならぬ課題を発見できる。



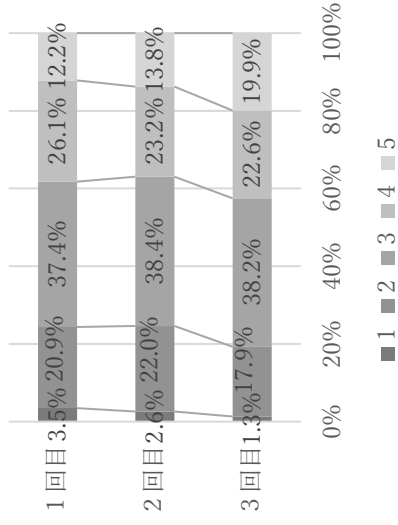
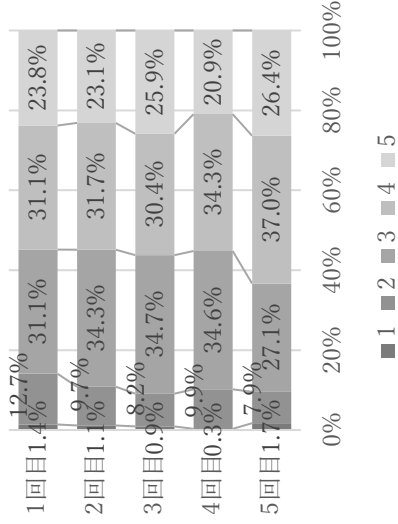
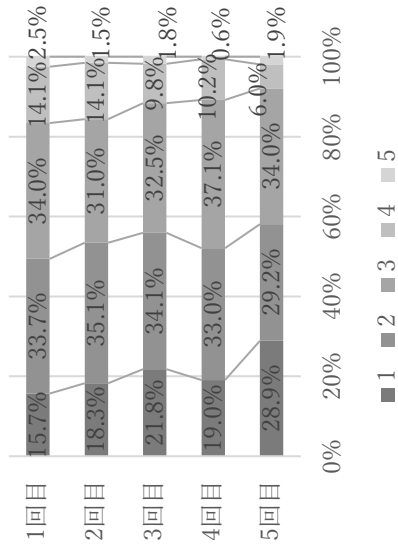
設問 1 4 課題研究の結果を分析し結論を見出すことができる。



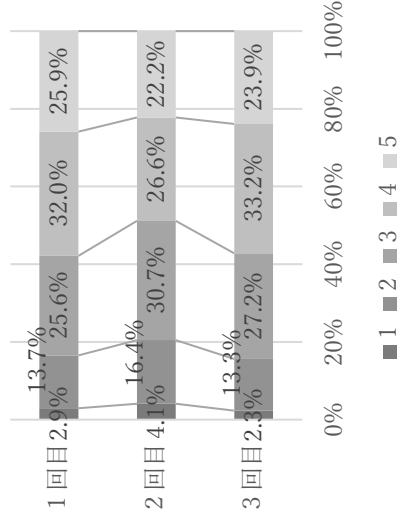
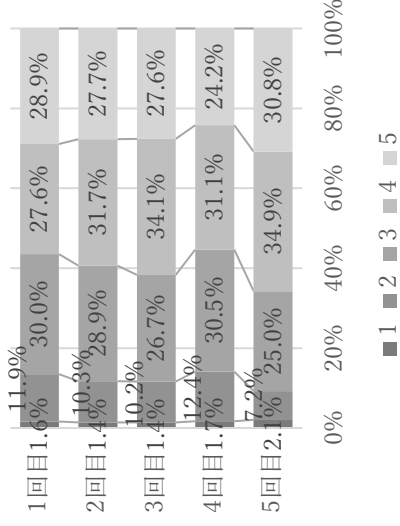
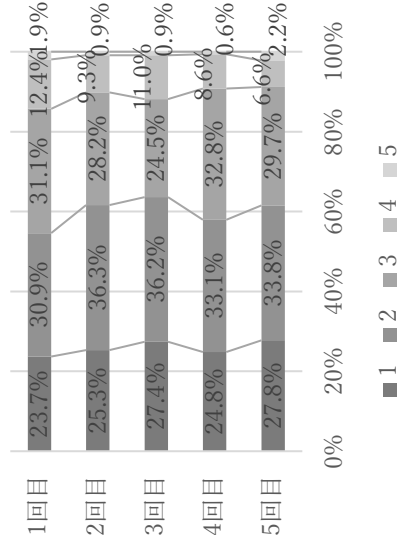
設問 1 5 一つの事象に対し、肯定的、否定的双方の立場から捉え多方面から考えることができる。



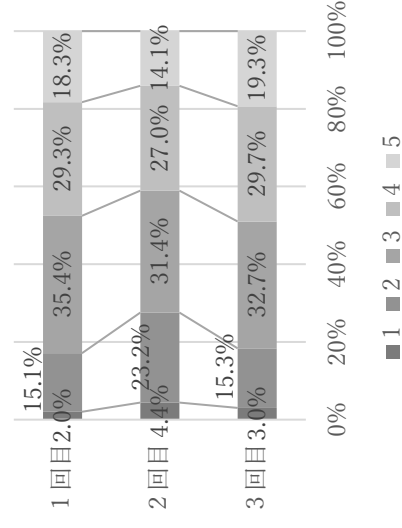
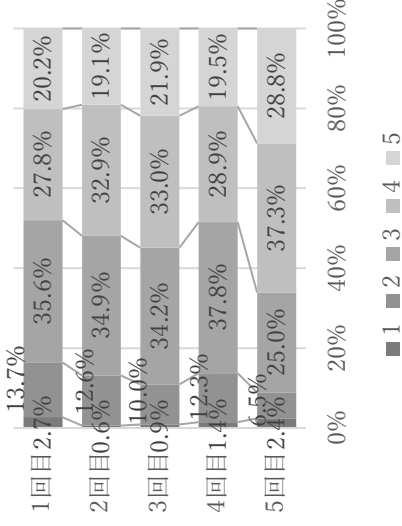
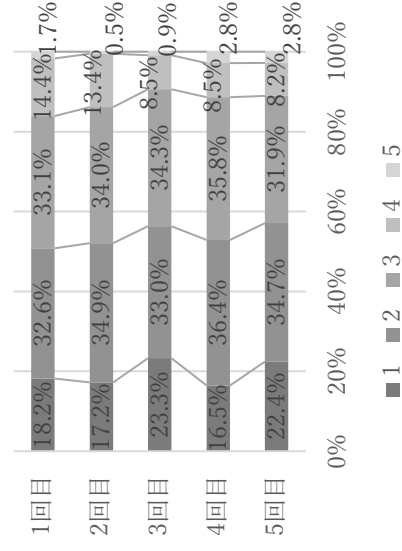
設問 1 6 得られた情報を鵜呑み（うのみ）にせず、客観的視点で捉えて精査できる。



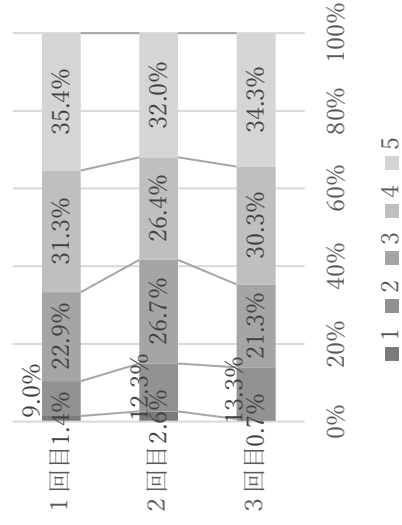
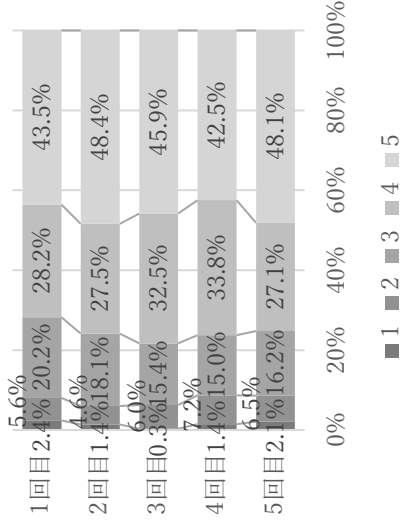
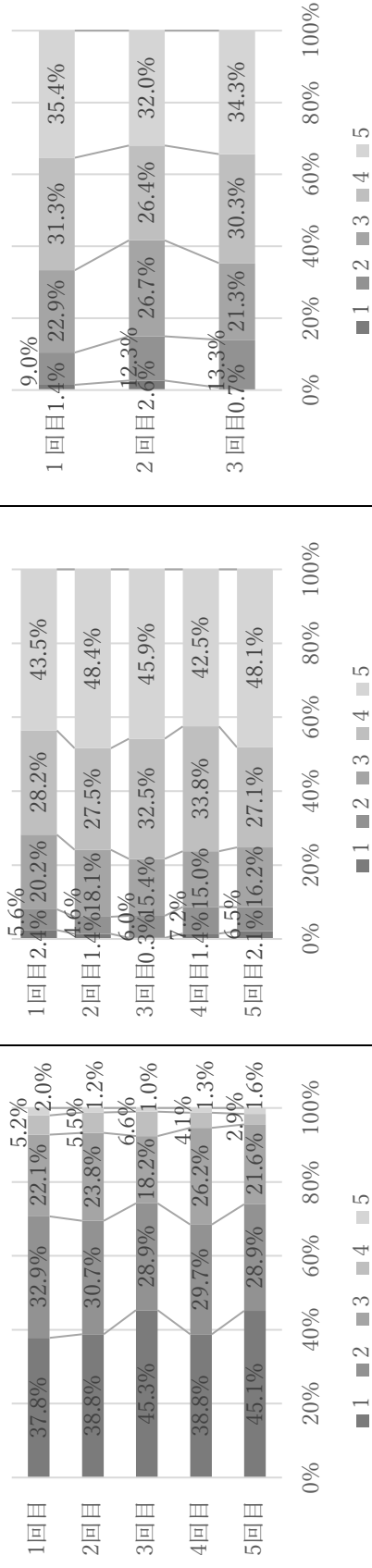
設問 1 7 自分の長所、短所を分析し長所を生かした進路決定ができる。



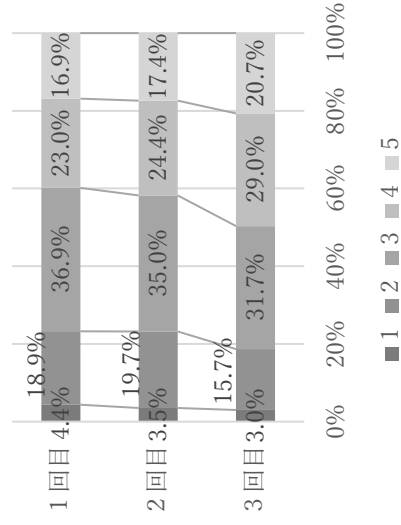
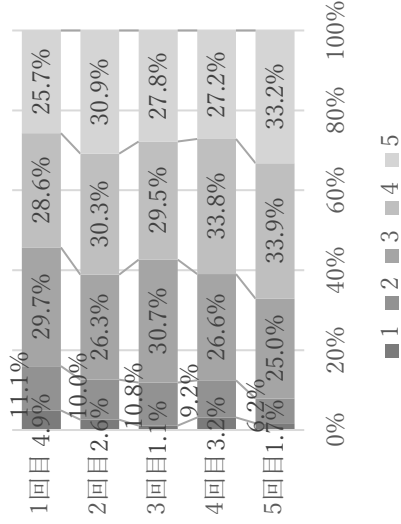
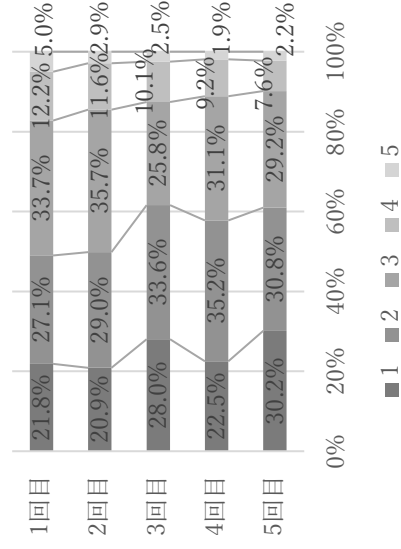
設問 1 8 全体の中で自分の役割を分析し、自分の持っている能力を最大限に発揮できる。



設問 1 9 考えや意見、タイプの異なる周囲の人とも協働しようとする努力ができる。

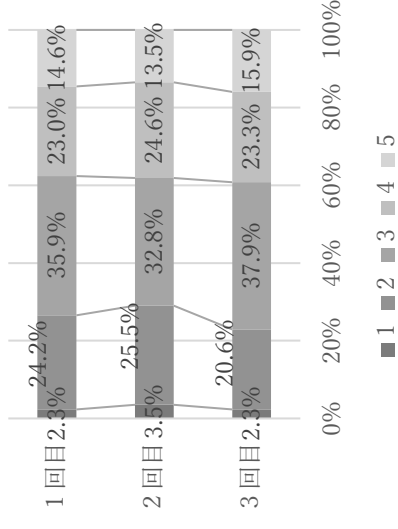
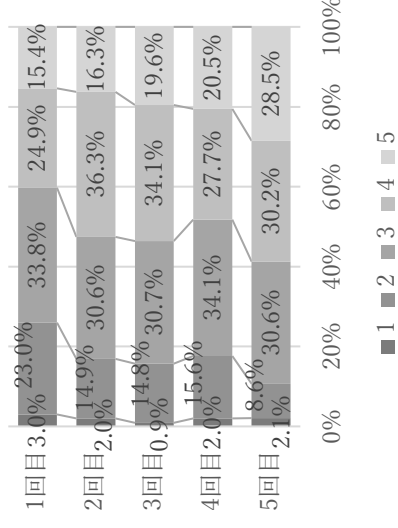
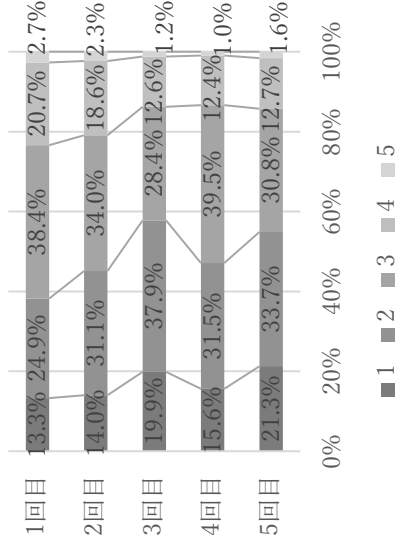


設問 2 0 地域の人の声にも耳を傾け、問題解決のために用いる。

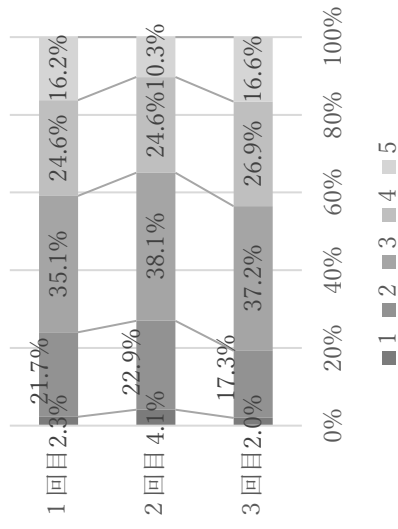
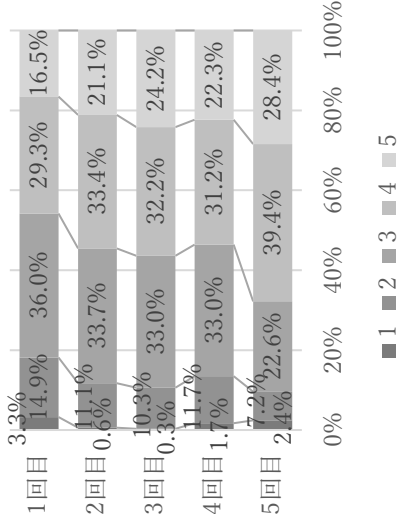
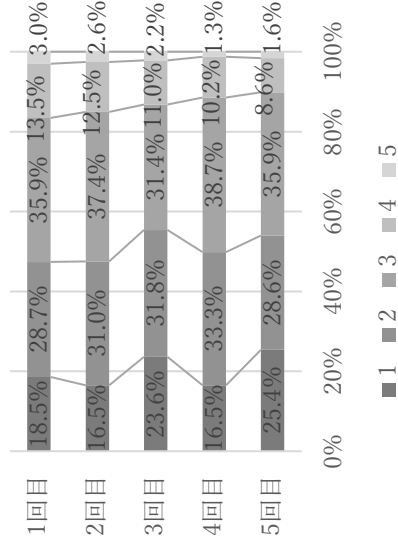




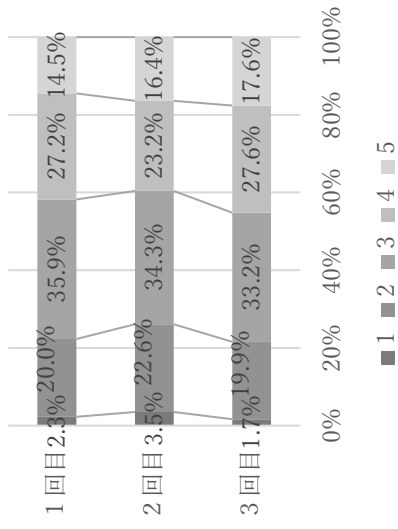
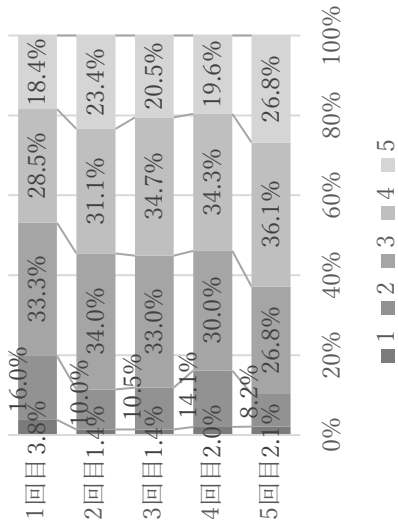
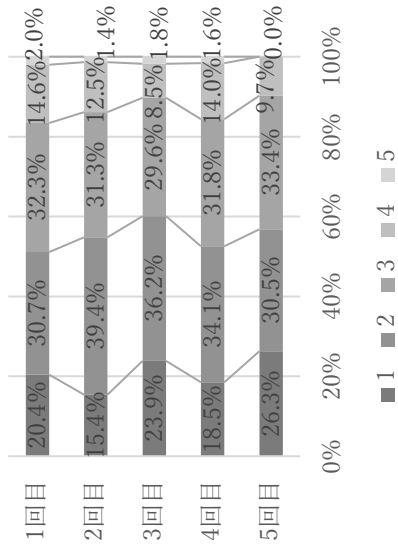
設問 2 1 自分の考えを様々な方法で効果的に表現することができる。



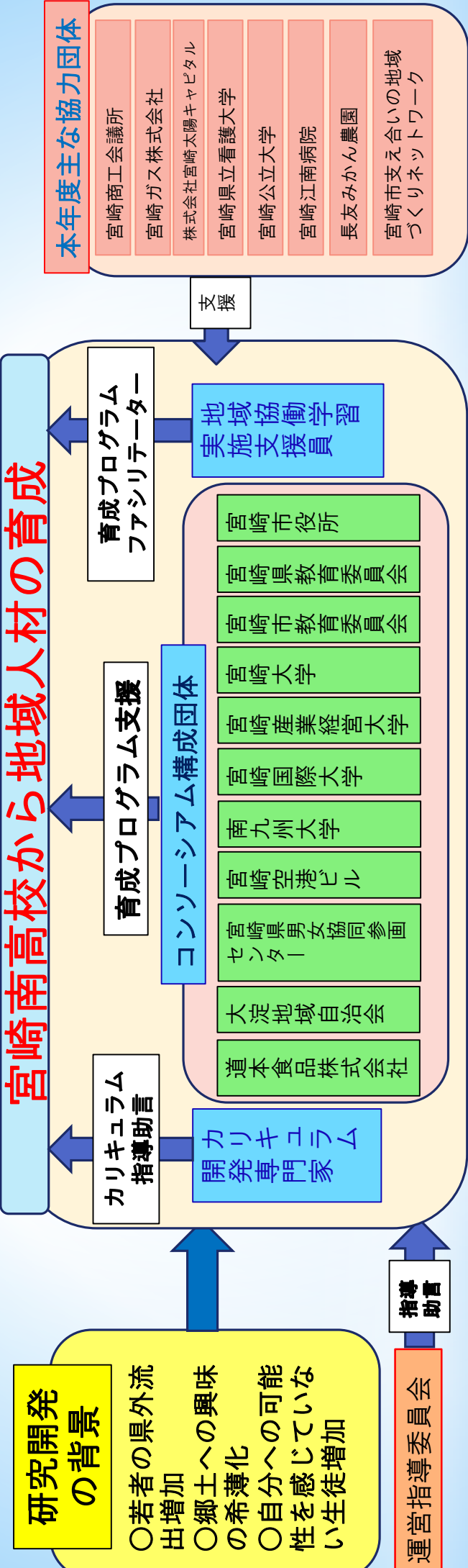
設問 2 2 異なる意見に遭遇しても、自らの見解を再構築し合意形成ができる



設問 2 3 他者を説得し、目標達成に向け実践できる。



# 産学官連携による人の地域循環教育プログラムの研究開発



活動日程	内容
令和3年4月	宮崎市へ壁画の寄贈 宮崎市と連携して実施予定であったイベントが中止となり。その代替として壁画を宮崎市に寄贈し宮崎市長より感謝状を贈呈された。
令和3年6月～12月	生徒課題研究において、胸帯血の重要性を呼びかけるパンフレットを作成。妊婦の方に渡していただき、白血病患者の一助となるよう取り組んだ。 生徒課題研究において、子育て世代へのサポート授業として放課後寺子屋事業を地域の中学校、宮崎市青少年育成協議会と連携して実施した。 地元サッカーチーム「テグバジャロ宮崎」の観戦者数増加に向けて地域と連携したフリーマーケットや地元酒造会社との連携を提案。次年度実現に向けて計画中。 地元名産の柑橘類「せとか」の6次産業について入浴剤を提案。次年度製造予定。
令和3年12月	2学年課題研究発表大会において、地域課題に対する探究活動を実施
令和4年3月	購入イノベーションコンテストにおいて、9団体と地域探究活動を実施 高校生による地元自慢バトル「ミヤザキサステイナブル・フードアワード」を実施。本校以外にも飯野高校、小林高校、日南高校、福島高校と連携して実施。 1, 2学年フロンティア科による交流会を実施。KPMGコンサルティング株式会社の溝部明也様より探究的思考力を生かすための講義を受ける。

令和3年度の目標	主な取組状況
【研究開発Ⅰ】 「地域の現状・魅力を知る地域魅力」の育成	地域の魅力、現状をSDGsを通して学んだ 宮崎の企業・行政の活躍を本校同窓会を通じて学んだ 地域企業、行政、団体からのいただいたテーマを基に課題解決に取り組んだ 各大学の学部の話を聞き、自分が学ぶべき分野を学んだ 今までに学んだことを元に次年度以降の課題研究に向けて計画を立てた
【研究開発Ⅱ】 「地域資源の新しい価値を見出す(イノベーション力)」の育成	地域課題研究に、コンソーシアムよりアドバイスを受けながら取り組んだ 有識者からの意見を求め、内容の軌道修正を行った 有識者より意見を求め、内容の軌道修正を行った 自らの探究活動と進路との関係について深化させた。 職員、生徒研修会を実施後プレゼンテーション、ポスター制作等を行った ポスターセッションによる研究成果の発表を行った 県の実施する課題研究大会等に参加し、成果を発表した 本県で実施しているMSECフォーラムに本校より、日本語部門に11班、英語部門に1班参加した。英語部門においては見事1位を獲得した 課題研究で学んだことを自分たちの進路に活かした
【研究開発Ⅲ】 「地域の価値を発信するための行動力・実践力」の育成	本県で実施しているMSECフォーラムに本校より、日本語部門に11班、英語部門に1班参加した。英語部門においては見事1位を獲得した 課題研究で学んだことを自分たちの進路に活かした
その他の活動	探究図書委員会 地域魅力化型開発の総務として各教科、各部に企画を提案し実施に向けてコンソーシアムとの協議、連携を図った。

### 来年度課題

- 探究活動におけるICT機器の効果的な活用などの研修を実施、充実
- 探究活動が、生徒の進路実現にどの程度の効果的であるかを測る評価法の確立

令和3年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 地域魅力化型  
研究報告書 第3年次

## 未来の道を切り拓け

一飛べ鵬よ未来に向かつて一

vol.3

the way to the future

2022年(令和4年)3月 発行

発行者 宮崎県立宮崎南高等学校

校長 富高 啓順

編集 探究図書部

河原美那子 甲斐健二 西田慎一 嶋山薫 平野誠一郎  
中嶋遼河 副島弘貴 長友彬華 甲斐春樹

〒880-0926

宮崎県宮崎市月見ヶ丘5丁目2番1号

TEL 0985(51)2314

FAX 0985(51)0607

